

厚生文教常任委員会報告事項資料

資料 番号	資 料 名	所 管 課
1	小田原市スポーツ振興基本指針の改定について	スポーツ課
2	子ども・子育て支援の充実について	子育て政策課
3	(仮称) 橘地域認定こども園整備基本計画について	保 育 課

令和5年1月27日

小田原市スポーツ振興基本指針の改定について

1 策定の背景・趣旨

スポーツ基本法第10条では、都道府県及び市町村は、国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとしています。

本市においては、スポーツ振興における基本的な方向性を示すものとして、スポーツ振興を図る上での3つの視点を示した「小田原市スポーツ振興基本指針」を平成21年度（2009年度）に策定し、平成29年度（2017年度）に改定しました。

本指針は令和4年度（2022年度）で期間満了となることから、令和4年（2022年）3月に国が策定した第3期スポーツ基本計画や小田原市総合計画も踏まえながら、小田原市スポーツ推進審議会の意見も伺い、本指針の改定を行うものです。

2 小田原市スポーツ推進審議会の開催状況

スポーツ推進審議会は、（公財）小田原市体育協会や小田原市スポーツ推進委員協議会をはじめとするスポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員の15名で構成しています。

＜令和4年度の開催状況＞

第1回 令和4年9月29日（木）

第2回 令和4年12月22日（木）

3 小田原市スポーツ振興基本指針の概要

(1) 計画期間

小田原市総合計画の目標年次に合わせ、令和5年度（2023年度）～令和12年度（2030年度）とします。

(2) 基本的な方向性

現行指針の基本的な方向性を維持し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という3つの視点でスポーツ振興を図ります。

(3) 主な現況と課題

- 令和4年2月に実施した「小田原市市民スポーツ実施状況等市民アンケート」の結果、定期的に行っているスポーツとして「ウォーキング」「体操」「トレーニング」などの割合が高くなっており、身近で気楽に楽しめるスポーツへの環境づくりが必要となっています。
- （公財）小田原市体育協会に加盟する市内のスポーツ競技団体・レクリエーション団体等は減少傾向にあります。
- 一方で、小田原アリーナを拠点に活動する湘南ベルマーレフットサルクラブの試合には1,000人以上が来場するなど、スポーツの振興や地域の活性化に貢献する大会、イベントがコンスタントに開催されるようになっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、子どもたちのスポーツをする機会が減少し、近年は子どもの体力向上が全国的な課題となっています。
- スポーツ活動に生きがいや健康増進が求められる中、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが主体的にスポーツを楽しむことのできる支援や環境づくりが必要となっています。
- 多様化する市民ニーズに対応するため、スポーツ施設の整備や運営の在り方を研究していく必要があります。
- スポーツ環境の変化に応じた、スポーツ指導者の育成・充実に関係機関と連携しながら取り組む必要があります。

(4) 新たに位置付けた6つのテーマ

国の基本計画においては、スポーツを「する」「みる」「ささえる」を効果的に推進するため、重点的に取り組む施策が掲げられました。

本市においては、国の基本計画を参酌して、新たに6つのテーマを設け、本市のスポーツ振興を推進してまいります。

<テーマ①> 多様な主体におけるスポーツ機会の創出

市民のスポーツ実施率を向上させ、日々の生活の中で市民一人一人がスポーツの価値を享受できるようスポーツの機会を創出していきます。

＜テーマ②＞ スポーツ（運動）などによる健康増進

市民の多様な健康状態やニーズに応じてスポーツを通じた健康増進により健康寿命の延伸を目指します。

＜テーマ③＞ スポーツによる地方創生、まちづくり

スポーツを活用した地域の社会課題の解決を促進することで、スポーツが地域・社会に貢献し、スポーツ振興と地域振興の好循環を目指します。

＜テーマ④＞ スポーツを通じた共生社会の実現

誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を推進します。

＜テーマ⑤＞ スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」

市民がスポーツに親しむうえで不可欠となる「ハード（場づくり）」「ソフト（環境の構築）」「人材」といった基盤を確保・強化するため、場づくりや環境の構築、スポーツに関わる人材の育成等を進めます。

＜テーマ⑥＞ スポーツにおけるデジタルの活用

デジタル技術を活用して、スポーツ参画人口の拡大やスポーツ参画者の利便性を高めます。

4 パブリックコメント募集期間

令和5年2月15日（水）～3月16日（木）

小田原市
スポーツ実施状況等市民アンケート
調査結果報告書

令和4年2月

小田原市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	運動・スポーツの実施状況について	5
3	スポーツ施設について	30

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民のスポーツに関する日常生活の現状や意識の変化・実態、スポーツ推進に対する意見などを把握し、今後のスポーツ施策の検討資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査対象

小田原市在住の18歳以上の市民から無作為抽出

3 調査期間

令和4年2月9日から令和4年2月21日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	596通	29.8%

6 調査結果の表示方法

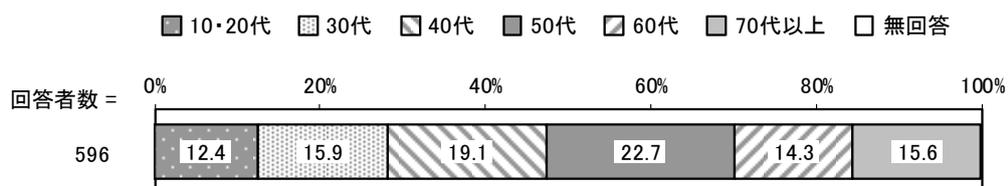
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

1 回答者属性

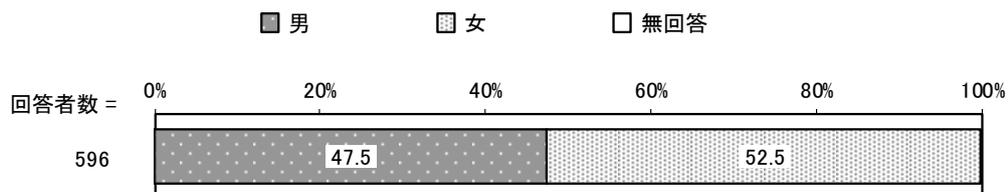
F 1 あなたの現在の満年齢に当てはまる番号に○をしてください。

「50代」の割合が22.7%と最も高く、次いで「40代」の割合が19.1%、「30代」の割合が15.9%となっています。



F 2 あなたの性別に○をしてください。

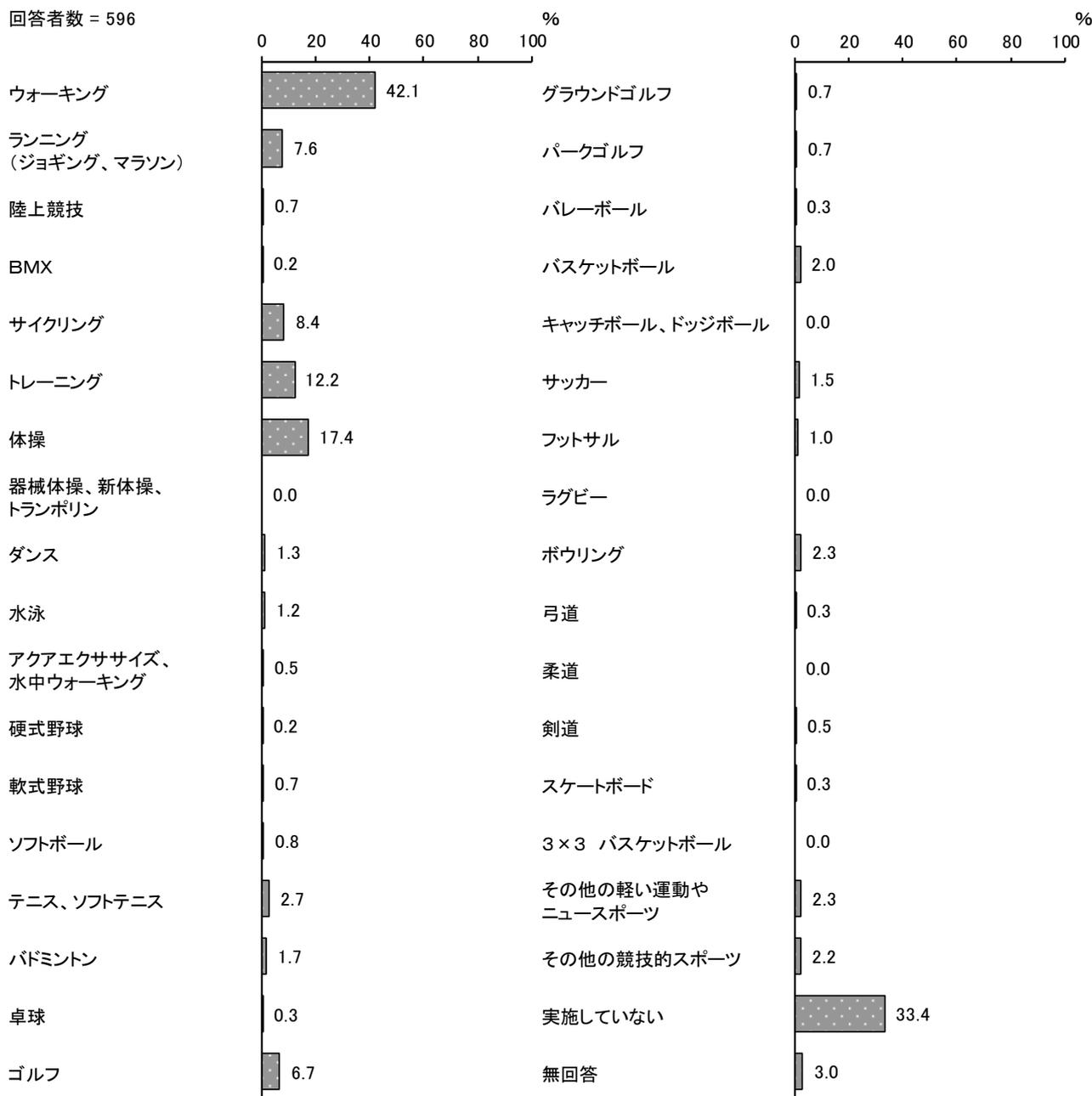
「男」の割合が47.5%、「女」の割合が52.5%となっています。



F3 あなたが、この1年間に定期的に、1回あたり30分以上行っている「運動やスポーツ」について伺います。依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から、あなたが現在実施している運動・スポーツについて、上位3つまで選んで番号を記載してください。（複数回答可）

「ウォーキング」の割合が42.1%と最も高く、次いで「実施していない」の割合が33.4%、「体操」の割合が17.4%となっています。

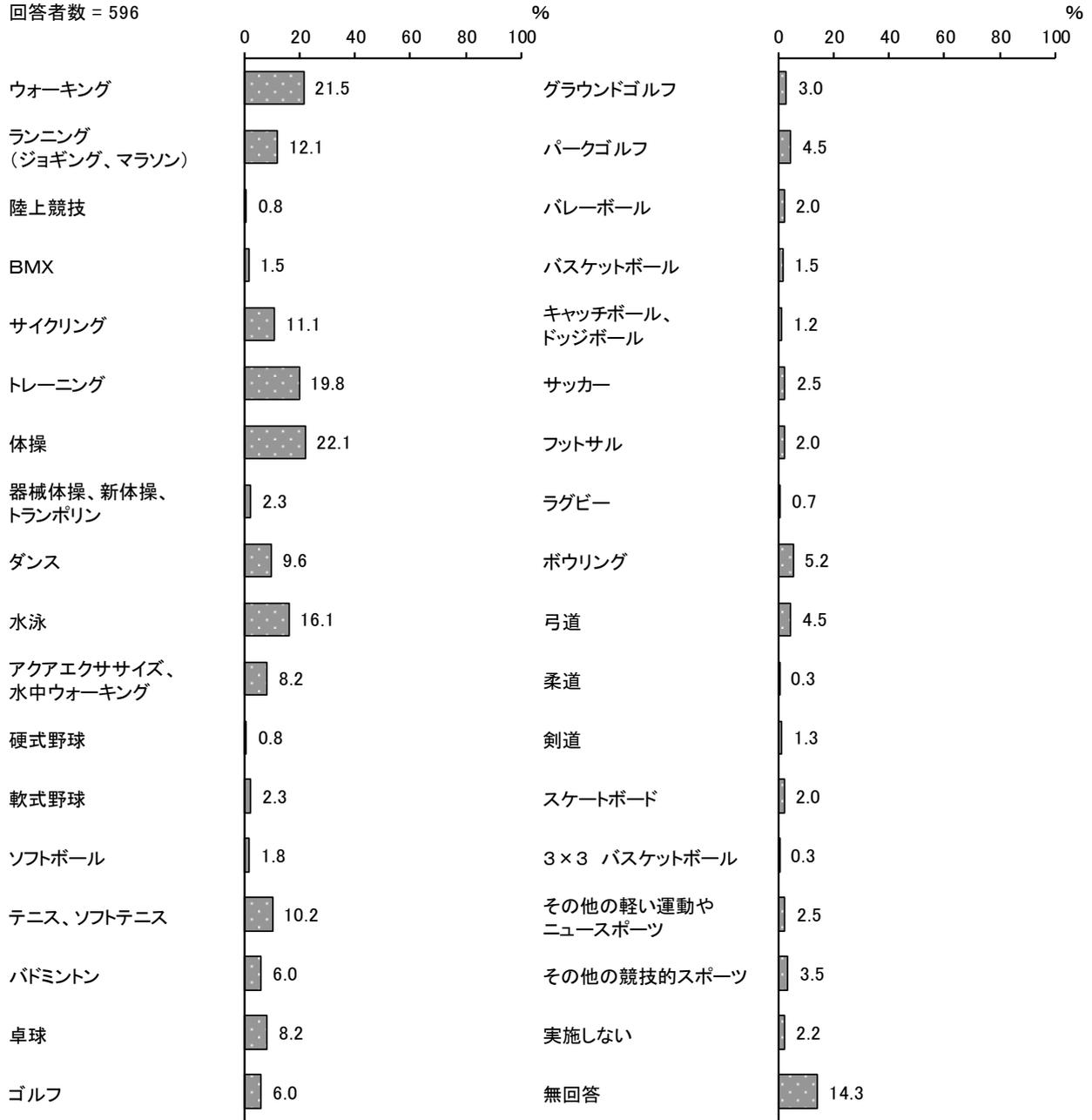
回答者数 = 596



F 4 依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から、あなたが今後実施してみたい運動・スポーツについて、上位3つまで選んで番号を記載してください。(複数回答可)

「体操」の割合が22.1%と最も高く、次いで「ウォーキング」の割合が21.5%、「トレーニング」の割合が19.8%となっています。

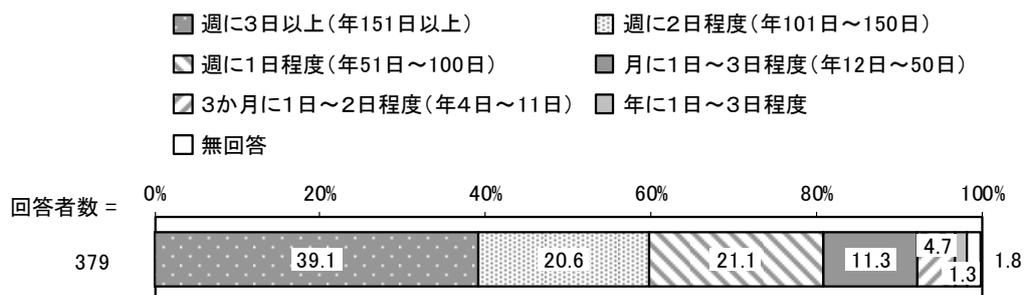
回答者数 = 596



2 運動・スポーツの実施状況について

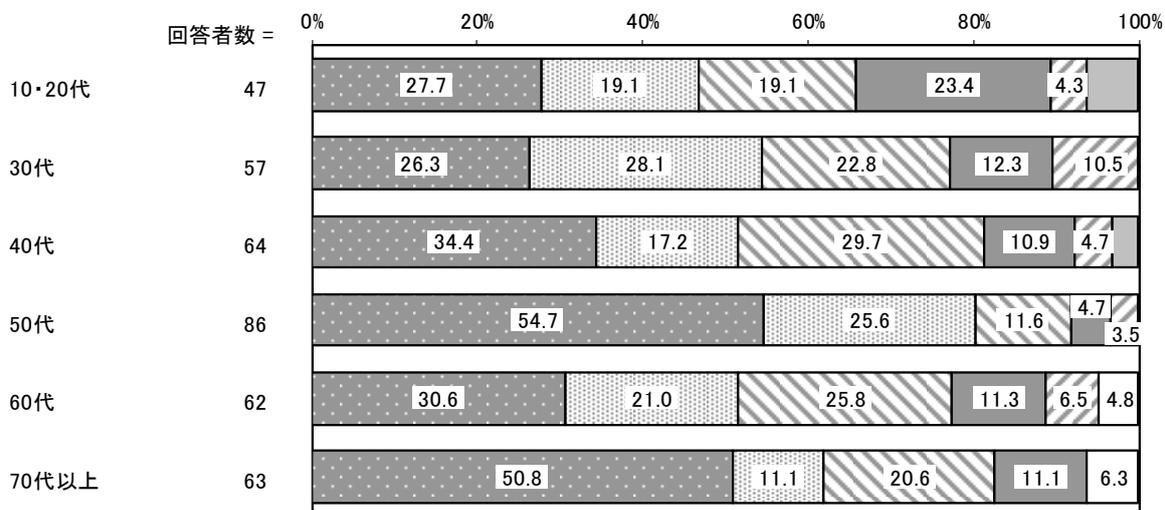
問1 現在実施している運動・スポーツがあると答えた方に伺います。
 あなたが実施した運動やスポーツを1年間通算すると、どのくらいの日数になりますか。当てはまる番号1つだけに○をしてください。

「週に3日以上（年151日以上）」の割合が39.1%と最も高く、次いで「週に1日程度（年51日～100日）」の割合が21.1%、「週に2日程度（年101日～150日）」の割合が20.6%となっています。



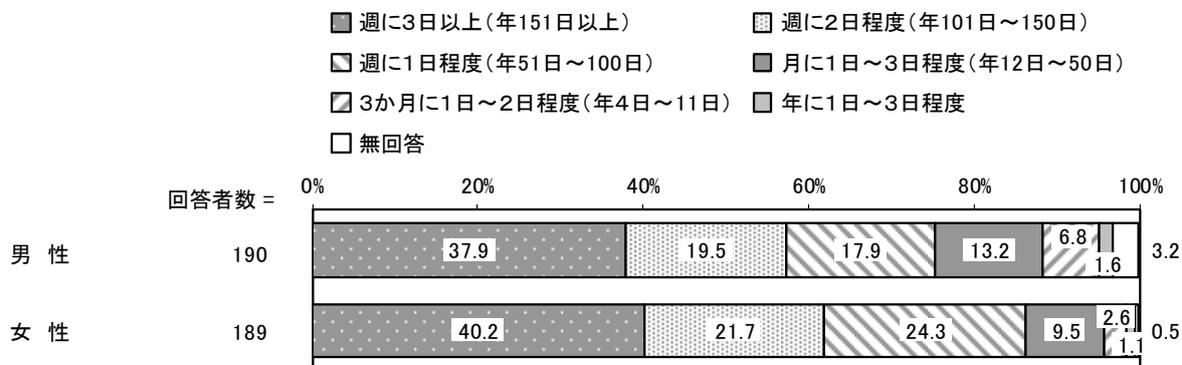
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50代で「週に3日以上（年151日以上）」の割合が高く、5割半ばとなっています。また、30代で「週に2日程度（年101日～150日）」の割合が、40代で「週に1日程度（年51日～100日）」の割合が高く、約3割となっています。



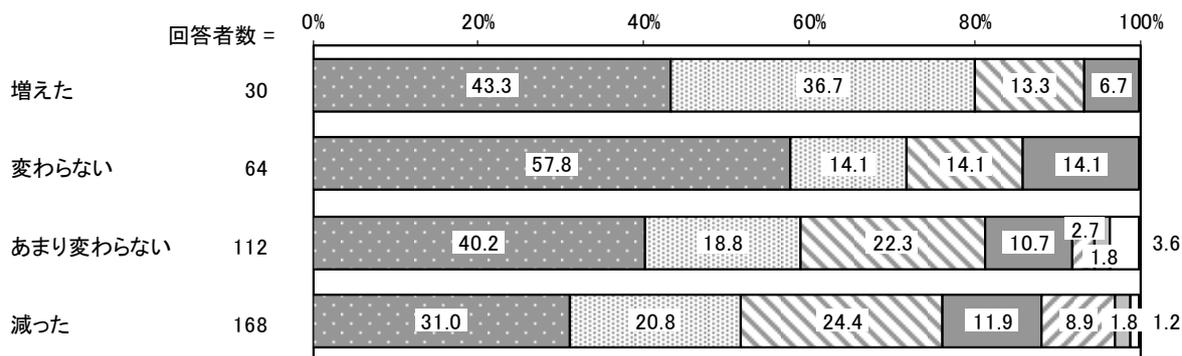
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「週に1日程度（年51日～100日）」の割合が高く、2割半ばとなっています。



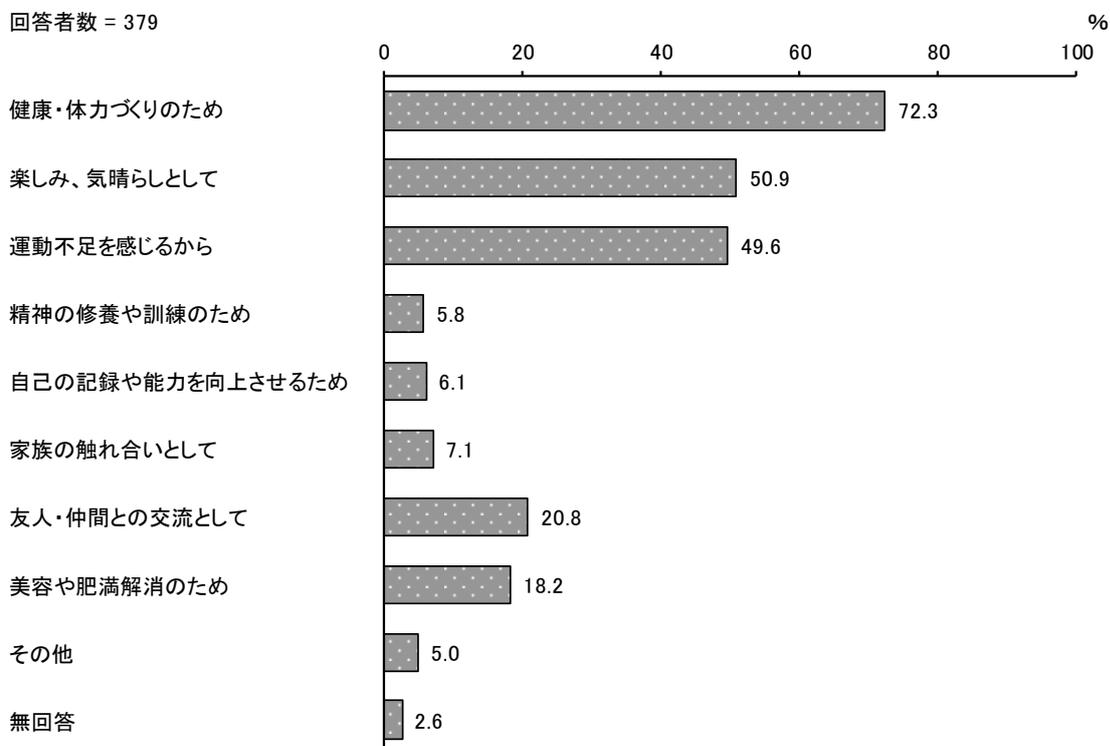
【新型コロナウイルス感染症の影響による運動・スポーツの実施頻度の変化別】

新型コロナウイルス感染症の影響による運動・スポーツの実施頻度の変化別でみると、頻度が変わらない人で「週に3日以上（年151日以上）」の割合が高く、約6割となっています。



問2 現在実施している運動・スポーツがあると答えた方に伺います。
あなたがこの1年間で運動やスポーツをした理由について、当てはまる番号に上位3つまで○をしてください。(複数回答可)

「健康・体力づくりのため」の割合が72.3%と最も高く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」の割合が50.9%、「運動不足を感じるから」の割合が49.6%となっています。



【年代別】

年代別でみると、40代以下に比べ、50代以上で「健康・体力づくりのため」の割合が高く、7割を超えています。また、40代で「楽しみ、気晴らしとして」の割合が高く、約7割となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	健康・体力づくりのため	楽しみ、気晴らしとして	運動不足を感じるから	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	家族の触れ合いとして	友人・仲間との交流として	美容や肥満解消のため	その他	無回答
10・20代	47	61.7	63.8	40.4	12.8	8.5	2.1	31.9	17.0	4.3	2.1
30代	57	71.9	47.4	50.9	5.3	7.0	17.5	14.0	28.1	5.3	1.8
40代	64	60.9	67.2	46.9	4.7	7.8	6.3	20.3	21.9	6.3	1.6
50代	86	79.1	45.3	53.5	7.0	5.8	10.5	14.0	19.8	5.8	—
60代	62	77.4	46.8	54.8	3.2	3.2	3.2	22.6	17.7	4.8	4.8
70代以上	63	77.8	39.7	47.6	3.2	4.8	1.6	27.0	4.8	3.2	6.3

【性別】

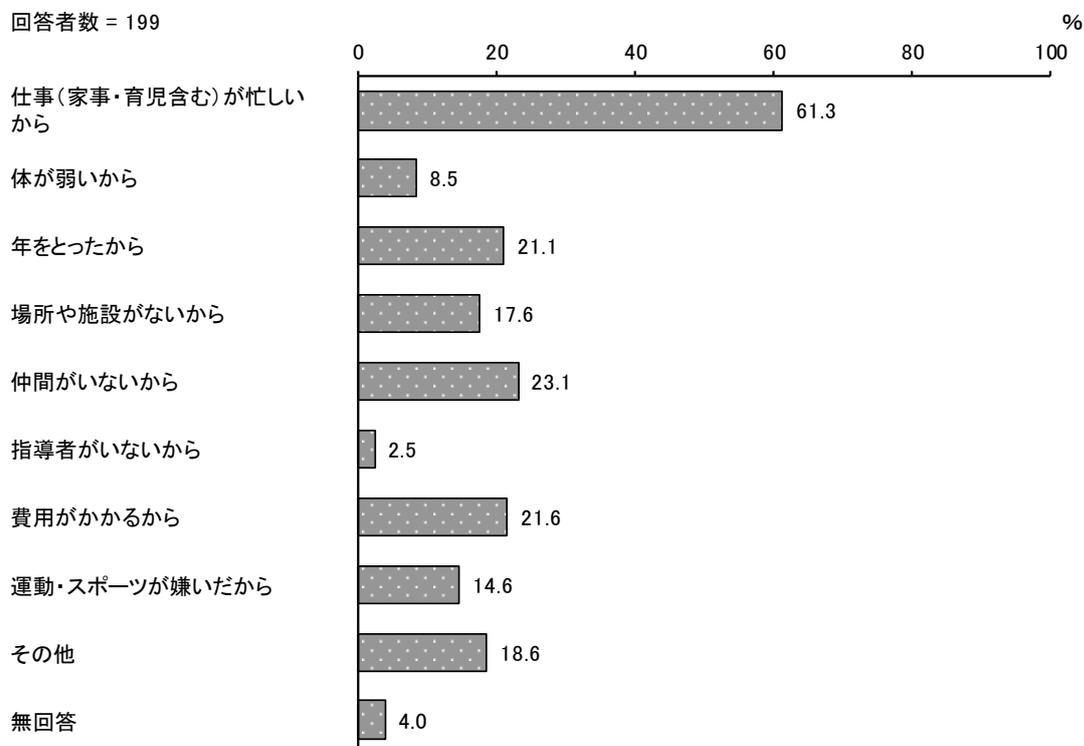
性別でみると、女性に比べ、男性で「自己の記録や能力を向上させるため」「友人・仲間との交流として」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「運動不足を感じるから」「美容や肥満解消のため」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	健康・体力づくりのため	楽しみ、気晴らしとして	運動不足を感じるから	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	家族の触れ合いとして	友人・仲間との交流として	美容や肥満解消のため	その他	無回答
男性	190	71.6	50.5	45.8	7.9	8.9	5.8	25.8	12.6	4.7	3.2
女性	189	73.0	51.3	53.4	3.7	3.2	8.5	15.9	23.8	5.3	2.1

問3 現在運動・スポーツを実施していないと答えた方に伺います。
あなたが運動を行わなかった理由について、当てはまる番号に上位3つまで○を
してください。(複数回答可)

「仕事(家事・育児含む)が忙しいから」の割合が61.3%と最も高く、次いで「仲間がいないから」の割合が23.1%、「費用がかかるから」の割合が21.6%となっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が上がるにつれ「年をとったから」の割合が、年代が下がるにつれ「仲間がいないから」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、40代で「仕事（家事・育児含む）が忙しいから」の割合が高く、約7割となっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事（家事・育児含む）が忙しいから	体が弱いから	年をとったから	場所や施設がないから	仲間がいないから	指導者がいないから	費用がかかるから	運動・スポーツが嫌いだから	その他	無回答
10・20代	26	65.4	7.7	—	19.2	38.5	3.8	15.4	19.2	19.2	—
30代	37	59.5	10.8	2.7	21.6	24.3	5.4	29.7	13.5	10.8	2.7
40代	48	72.9	4.2	14.6	18.8	22.9	2.1	29.2	14.6	14.6	6.3
50代	48	60.4	6.3	16.7	16.7	22.9	2.1	18.8	14.6	27.1	4.2
60代	21	66.7	4.8	57.1	9.5	19.0	—	19.0	14.3	28.6	4.8
70代以上	19	26.3	26.3	73.7	15.8	5.3	—	5.3	10.5	10.5	5.3

【性別】

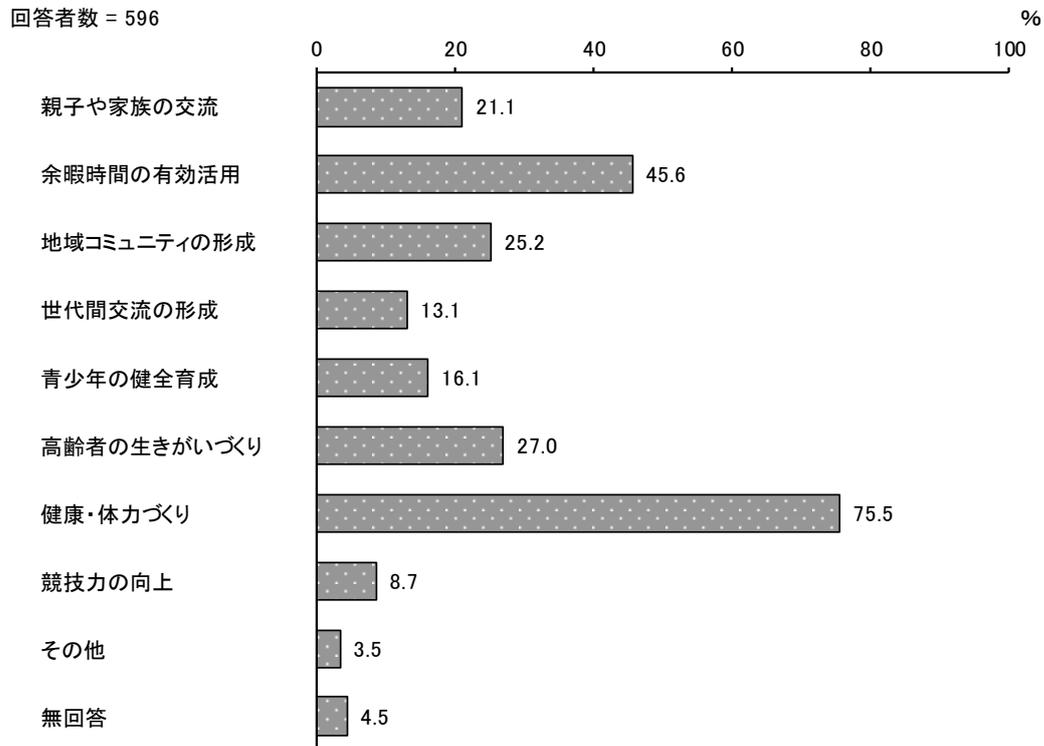
性別でみると、女性に比べ、男性で「年をとったから」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「仕事（家事・育児含む）が忙しいから」「体が弱いから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事（家事・育児含む）が忙しいから	体が弱いから	年をとったから	場所や施設がないから	仲間がいないから	指導者がいないから	費用がかかるから	運動・スポーツが嫌いだから	その他	無回答
男性	84	56.0	3.6	32.1	17.9	22.6	2.4	19.0	16.7	16.7	2.4
女性	115	65.2	12.2	13.0	17.4	23.5	2.6	23.5	13.0	20.0	5.2

問4 小田原市のスポーツ振興について伺います。
 あなたは、小田原市のスポーツ振興及びスポーツ施設にどのような効果を期待していますか。次の中から、当てはまる番号に上位3つまで○をしてください。（複数回答可）

「健康・体力づくり」の割合が75.5%と最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」の割合が45.6%、「高齢者の生きがいがづくり」の割合が27.0%となっています。



【年代別】

年代別でみると、30代以上で年代が下がるにつれ「親子や家族の交流」の割合が、年代が上がるにつれ「高齢者の生きがいづくり」の割合が高くなる傾向が見られます。また、他に比べ、10・20代で「地域コミュニティの形成」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	親子や家族の交流	余暇時間の有効活用	地域コミュニティの形成	世代間交流の形成	青少年の健全育成	高齢者の生きがいづくり	健康・体力づくり	競技力の向上	その他	無回答
10・20代	74	24.3	44.6	43.2	17.6	17.6	17.6	74.3	14.9	1.4	1.4
30代	95	37.9	44.2	23.2	11.6	15.8	11.6	69.5	10.5	8.4	1.1
40代	114	31.6	48.2	26.3	10.5	21.9	22.8	74.6	13.2	—	3.5
50代	135	15.6	51.1	24.4	16.3	17.0	22.2	80.7	8.9	3.7	1.5
60代	85	10.6	49.4	22.4	14.1	14.1	44.7	85.9	2.4	4.7	5.9
70代以上	93	6.5	33.3	15.1	8.6	8.6	46.2	66.7	2.2	3.2	15.1

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「余暇時間の有効活用」の割合が高く、約5割となっています。

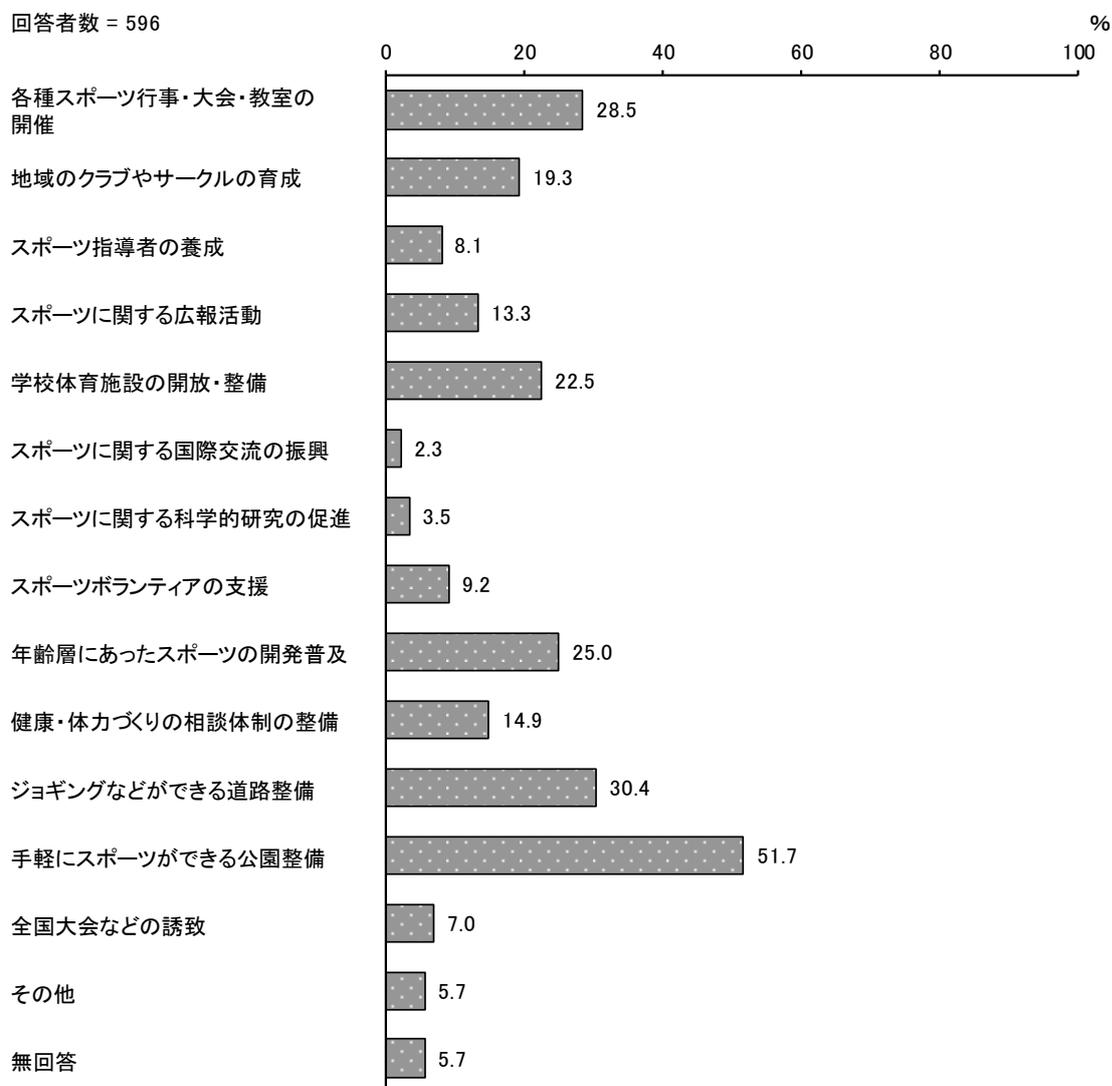
単位：％

区分	回答者数(件)	親子や家族の交流	余暇時間の有効活用	地域コミュニティの形成	世代間交流の形成	青少年の健全育成	高齢者の生きがいづくり	健康・体力づくり	競技力の向上	その他	無回答
男性	283	21.2	42.0	26.5	12.0	17.0	24.4	73.1	10.2	3.5	6.4
女性	313	21.1	48.9	24.0	14.1	15.3	29.4	77.6	7.3	3.5	2.9

問5 小田原市のスポーツ振興を図るために、今後どのような取り組みをすべきだと思いますか。次の中から、当てはまる番号に上位3つまで○をしてください。

(複数回答可)

「手軽にスポーツができる公園整備」の割合が51.7%と最も高く、次いで「ジョギングなどができる道路整備」の割合が30.4%、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」の割合が28.5%となっています。



【年代別】

年代別でみると、30代以上で年代が上がるにつれ「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、30代で「手軽にスポーツができる公園整備」の割合が、40代で「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	各種スポーツ行事・大会・教室の開催	地域のクラブやサークルの育成	スポーツ指導者の養成	スポーツに関する広報活動	学校体育施設の開放・整備	スポーツに関する国際交流の振興	スポーツに関する科学的研究の促進	スポーツボランティアの支援	年齢層にあったスポーツの開発普及	健康・体力づくりの相談体制の整備	ジョギングなどができる道路整備	手軽にスポーツができる公園整備	全国大会などの誘致	その他	無回答
10・20代	74	29.7	20.3	6.8	16.2	32.4	4.1	6.8	14.9	17.6	12.2	31.1	52.7	6.8	2.7	2.7
30代	95	31.6	17.9	6.3	7.4	23.2	1.1	2.1	5.3	11.6	10.5	33.7	64.2	10.5	7.4	3.2
40代	114	37.7	21.9	7.9	11.4	32.5	3.5	4.4	6.1	19.3	13.2	33.3	52.6	11.4	7.9	2.6
50代	135	24.4	22.2	9.6	12.6	18.5	2.2	2.2	8.9	23.7	17.0	38.5	58.5	7.4	5.2	1.5
60代	85	32.9	17.6	10.6	21.2	11.8	2.4	3.5	15.3	37.6	14.1	27.1	45.9	4.7	4.7	7.1
70代以上	93	15.1	14.0	6.5	12.9	17.2	1.1	3.2	7.5	41.9	21.5	14.0	32.3	—	5.4	19.4

【性別】

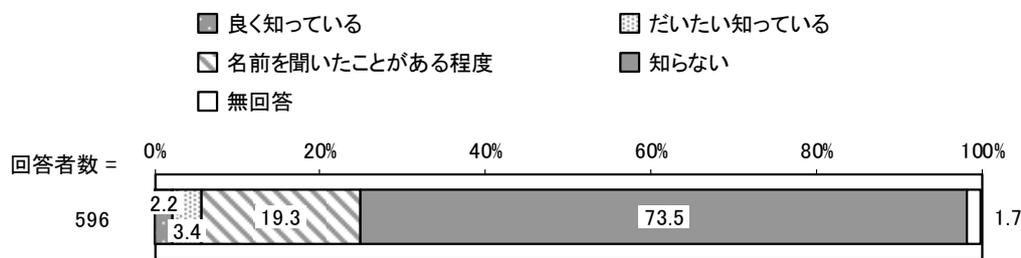
性別でみると、女性に比べ、男性で「スポーツに関する広報活動」「学校体育施設の開放・整備」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	各種スポーツ行事・大会・教室の開催	地域のクラブやサークルの育成	スポーツ指導者の養成	スポーツに関する広報活動	学校体育施設の開放・整備	スポーツに関する国際交流の振興	スポーツに関する科学的研究の促進	スポーツボランティアの支援	年齢層にあったスポーツの開発普及	健康・体力づくりの相談体制の整備	ジョギングなどができる道路整備	手軽にスポーツができる公園整備	全国大会などの誘致	その他	無回答
男性	283	25.8	19.4	8.8	15.9	26.1	3.2	3.5	7.8	20.1	12.4	29.3	50.2	8.8	5.7	7.8
女性	313	31.0	19.2	7.3	10.9	19.2	1.6	3.5	10.5	29.4	17.3	31.3	53.0	5.4	5.8	3.8

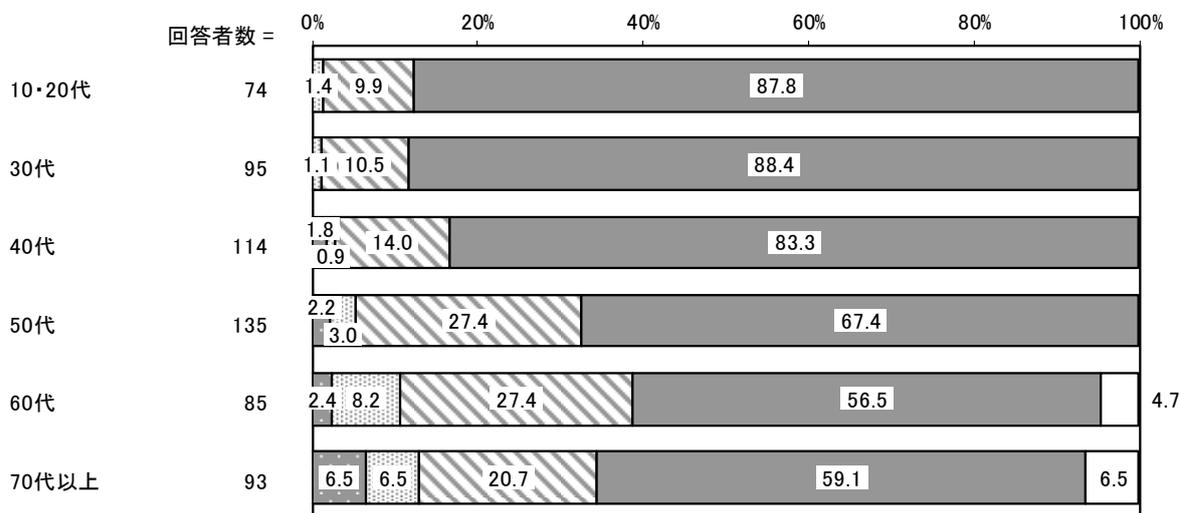
問6 あなたは「小田原市スポーツ推進委員」やその活動をご存知ですか。
 当てはまる番号に○をしてください。

「良く知っている」と「だいたい知っている」をあわせた“知っている”の割合が5.6%、「名前を聞いたことがある程度」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が92.8%となっています。



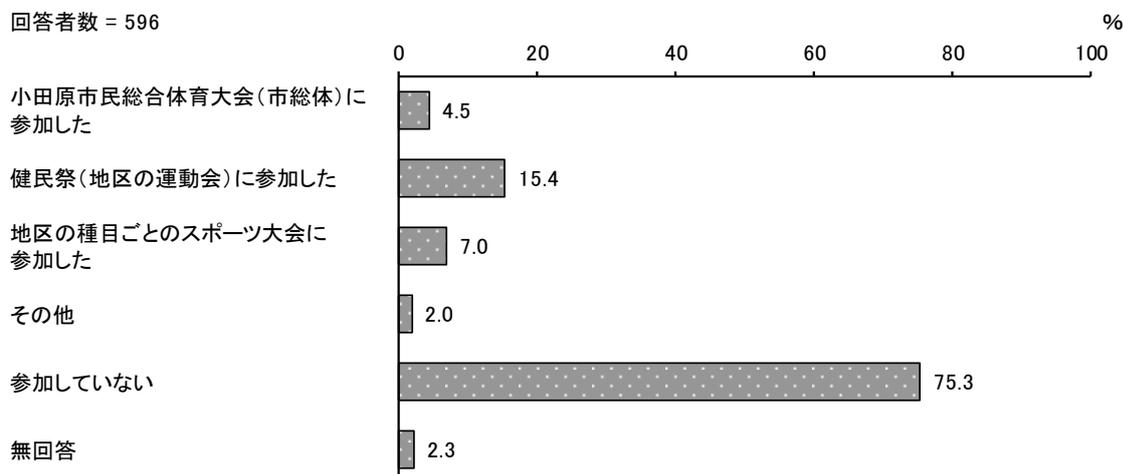
【年代別】

年代別でみると、50代以下に比べ、60代以上で“知っている”の割合が高くなっています。



問7 あなたの地域におけるスポーツ活動への参加について伺います。
あなたは過去5年間に地域のスポーツ活動を行ったことがありますか。選手に限らず、審判や役員、運営の補助等も含みます。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(複数回答可)

「参加していない」の割合が75.3%と最も高く、次いで「健民祭(地区の運動会)に参加した」の割合が15.4%となっています。



【年代別】

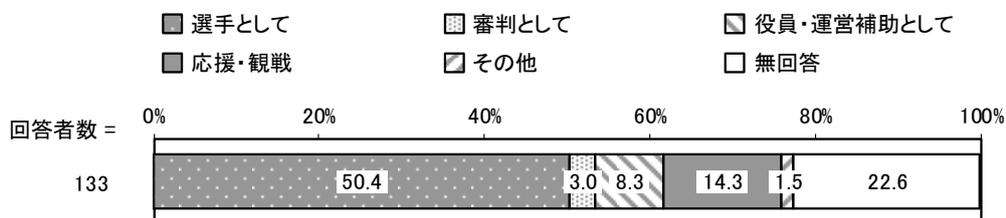
年代別でみると、他に比べ、10・20代で「参加していない」の割合が高く、8割半ばとなっています。また、40代、70代以上で「健民祭(地区の運動会)に参加した」の割合が高く、約2割となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	小田原市民総合体育大会(市総体)に参加した	健民祭(地区の運動会)に参加した	地区の種目ごとのスポーツ大会に参加した	その他	参加していない	無回答
10・20代	74	5.4	6.8	6.8	—	86.5	—
30代	95	4.2	15.8	6.3	3.2	74.7	—
40代	114	6.1	20.2	12.3	0.9	70.2	0.9
50代	135	3.7	14.1	5.2	1.5	80.0	—
60代	85	5.9	15.3	7.1	2.4	71.8	4.7
70代以上	93	2.2	18.3	4.3	4.3	69.9	9.7

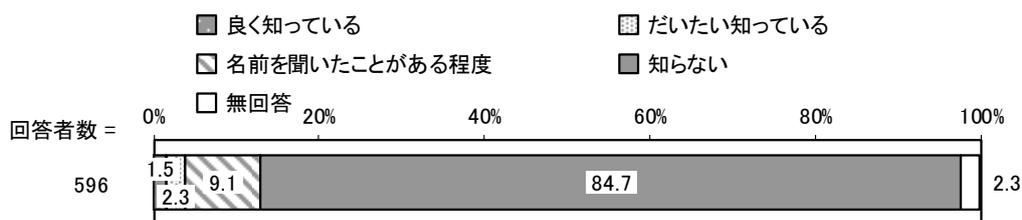
問8 問7で「小田原市民総合体育大会（市総体）に参加した」～「その他」をお選びいただいた方に伺います。
どの立場で参加しましたか。当てはまる番号に○をしてください。

「選手として」の割合が50.4%と最も高く、次いで「応援・観戦」の割合が14.3%となっています。



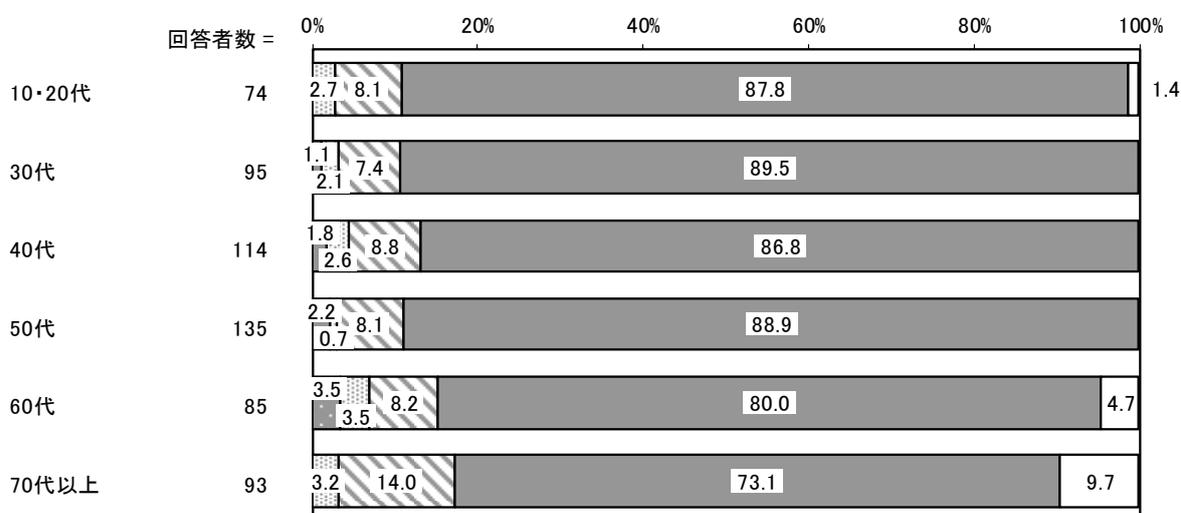
問9 あなたは「総合型地域スポーツクラブ」をご存知ですか。当てはまる番号に○をしてください。

「良く知っている」と「だいたい知っている」をあわせた“知っている”の割合が3.8%、「名前を聞いたことがある程度」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が93.8%となっています。



【年代別】

年代別でみると、60代以上に比べ、50代以下で“知らない”の割合が高く、8割半ばを超えています。



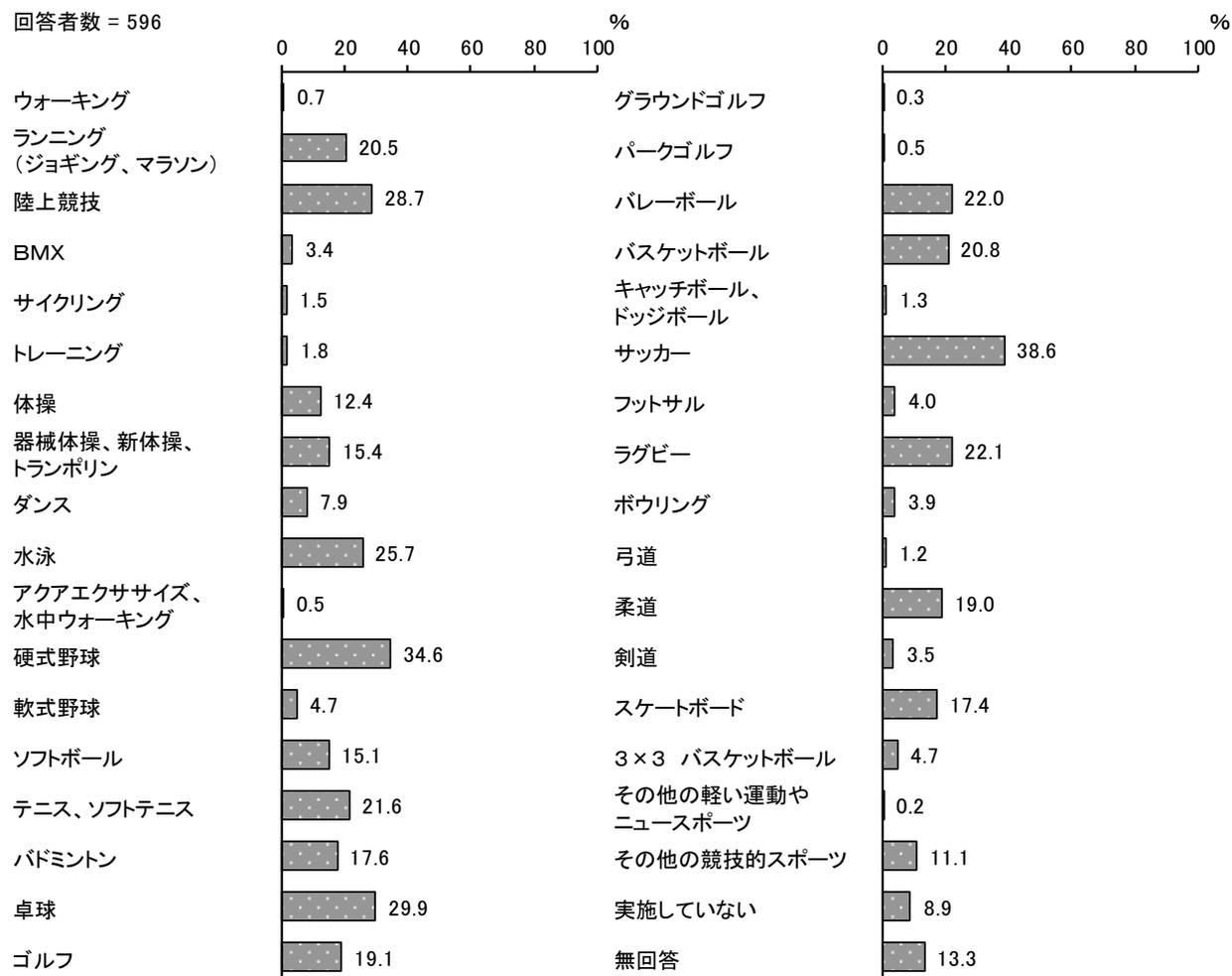
問10 「みる」スポーツについて伺います。

あなたが過去5年間に競技場やグラウンドなどで、直接試合を観戦したスポーツ種目、又はテレビ等で観戦したスポーツ種目について、依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から当てはまる番号すべてを選んで記載してください。

(複数回答可)

「サッカー」の割合が38.6%と最も高く、次いで「硬式野球」の割合が34.6%、「卓球」の割合が29.9%となっています。

回答者数 = 596



【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「陸上競技」「硬式野球」「サッカー」の割合が高く、特にサッカーはすべての年代で3割を超えています。また、40代以上では「ランニング（ジョギング、マラソン）」「テニス、ソフトテニス」の割合が高く、2割を超えています。

単位：%

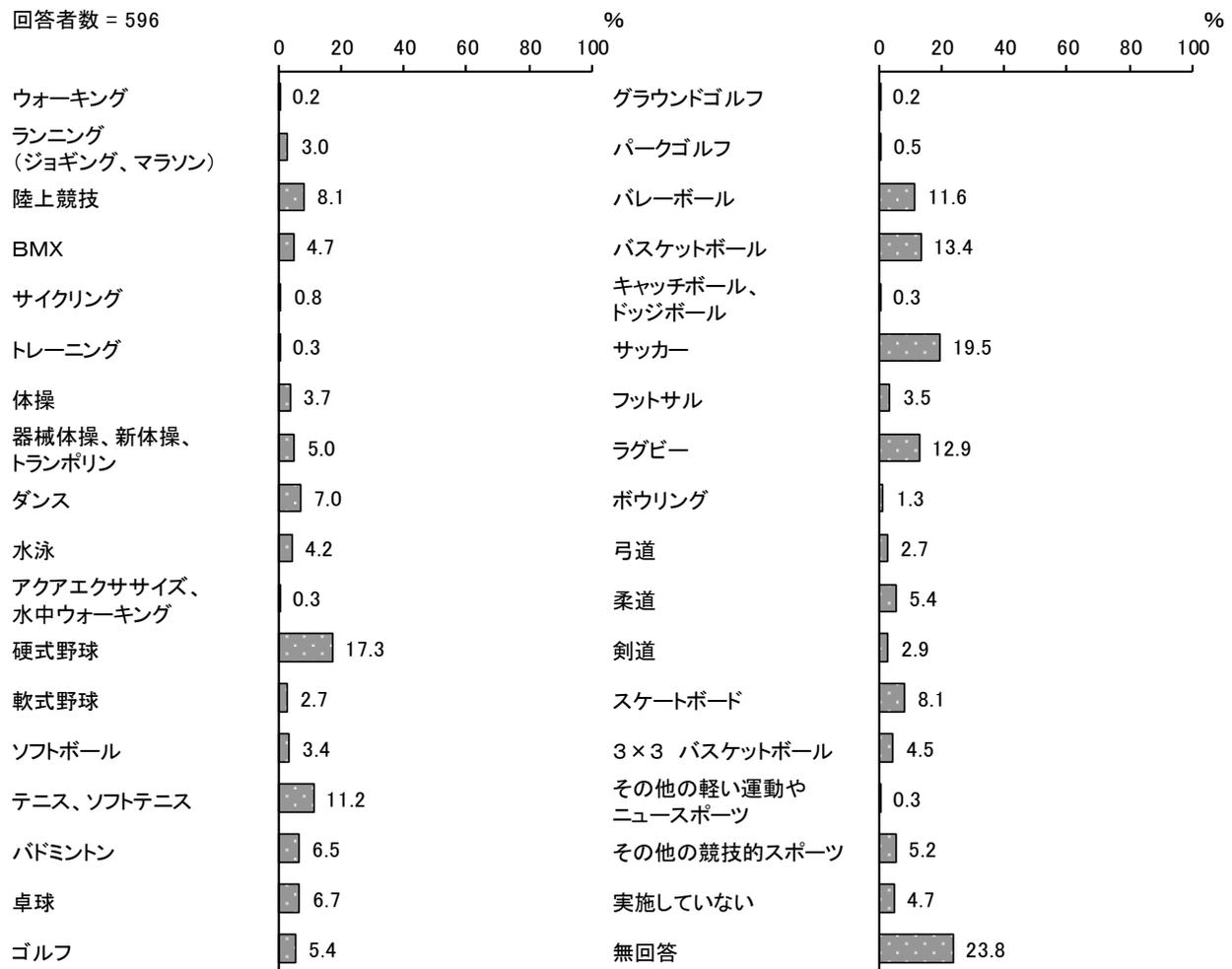
区分	回答者数(件)	ウォーキング	ランニング (ジョギング、マラソン)	陸上競技	B M X	サイクリング	トレーニング	体操	器械体操、新体操、 トランポリン	ダンス	水泳	アクアエクササイズ、 水中ウォーキング	硬式野球	軟式野球	ソフトボール	テニス、ソフトテニス	バドミントン	卓球	ゴルフ
10・20代	74	1.4	18.9	27.0	2.7	1.4	2.7	13.5	14.9	13.5	25.7	—	23.0	5.4	12.2	13.5	18.9	21.6	8.1
30代	95	—	9.5	13.7	4.2	—	2.1	7.4	13.7	4.2	21.1	—	27.4	3.2	12.6	12.6	9.5	20.0	8.4
40代	114	—	25.4	35.1	5.3	1.8	0.9	7.0	14.9	8.8	21.1	—	40.4	5.3	13.2	23.7	14.9	27.2	15.8
50代	135	—	22.2	31.9	5.9	1.5	2.2	10.4	16.3	9.6	24.4	0.7	39.3	5.9	17.8	25.2	19.3	31.1	23.0
60代	85	1.2	24.7	36.5	—	—	1.2	16.5	15.3	3.5	29.4	1.2	40.0	4.7	17.6	28.2	23.5	45.9	28.2
70代以上	93	2.2	20.4	25.8	—	4.3	2.2	22.6	17.2	7.5	34.4	1.1	32.3	3.2	16.1	23.7	20.4	33.3	29.0

区分	グラウンドゴルフ	パークゴルフ	バレーボール	バスケットボール	ドッジボール	キャッチボール、 ドッジボール	サッカー	フットサル	ラグビー	ボウリング	弓道	柔道	剣道	スケートボード	3×3 バスケットボール	その他の軽い運動や ニュースポーツ	その他の競技的スポーツ	実施していない	無回答
10・20代	—	—	21.6	28.4	2.7	32.4	6.8	14.9	2.7	1.4	13.5	4.1	18.9	2.7	—	13.5	17.6	10.8	
30代	—	—	14.7	14.7	1.1	44.2	6.3	18.9	2.1	—	11.6	2.1	13.7	7.4	—	10.5	12.6	11.6	
40代	—	0.9	27.2	26.3	0.9	38.6	7.0	20.2	3.5	1.8	19.3	0.9	18.4	6.1	—	13.2	8.8	8.8	
50代	—	—	17.8	20.0	—	45.9	1.5	28.1	4.4	1.5	20.0	3.7	20.7	5.2	—	13.3	7.4	8.1	
60代	1.2	—	28.2	16.5	—	35.3	1.2	18.8	3.5	—	28.2	3.5	20.0	3.5	1.2	8.2	3.5	11.8	
70代以上	1.1	2.2	23.7	19.4	4.3	30.1	2.2	28.0	6.5	2.2	20.4	7.5	11.8	2.2	—	6.5	5.4	31.2	

問 11 あなたが今後競技場やグラウンドなどで、直接試合を観戦してみたいスポーツ種目はありますか。ある場合は、依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から当てはまる番号すべてを選んで記載してください。（複数回答可）

「サッカー」の割合が 19.5%と最も高く、次いで「硬式野球」の割合が 17.3%、「バスケットボール」の割合が 13.4%となっています。

回答者数 = 596



【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「硬式野球」「サッカー」の割合が高く、1割を超えています。また、40代以下で「バスケットボール」の割合が、30代以上で「ラグビー」の割合がそれぞれ1割を超えています。

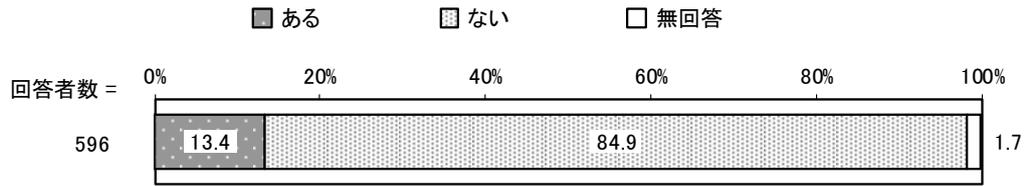
単位：%

区分	回答者数(件)	ウォーキング	ランニング (ジョギング、マラソン)	陸上競技	B M X	サイクリング	トレーニング	体操	器械体操、新体操、 トランポリン	ダンス	水泳	アクアエクササイズ、 水中ウォーキング	硬式野球	軟式野球	ソフトボール	テニス、ソフトテニス	バドミントン	卓球	ゴルフ
10・20代	74	—	2.7	6.8	6.8	—	—	2.7	5.4	8.1	4.1	1.4	13.5	1.4	1.4	12.2	10.8	2.7	—
30代	95	—	2.1	4.2	5.3	—	—	2.1	2.1	7.4	2.1	—	18.9	2.1	3.2	12.6	4.2	5.3	3.2
40代	114	—	5.3	7.0	5.3	1.8	—	2.6	4.4	7.9	5.3	—	19.3	2.6	3.5	7.9	4.4	5.3	4.4
50代	135	—	0.7	8.9	3.7	—	0.7	4.4	4.4	10.4	1.5	—	20.0	4.4	5.9	10.4	6.7	5.9	5.2
60代	85	—	2.4	14.1	4.7	—	—	3.5	7.1	1.2	7.1	—	14.1	2.4	1.2	15.3	8.2	14.1	8.2
70代以上	93	1.1	5.4	7.5	3.2	3.2	1.1	6.5	7.5	5.4	6.5	1.1	15.1	2.2	3.2	10.8	6.5	7.5	10.8

区分	グラウンドゴルフ	パークゴルフ	バレーボール	バスケットボール	ドッジボール	キャッチボール	サッカー	フットサル	ラグビー	ボウリング	弓道	柔道	剣道	スケートボード	3×3 バスケットボール	その他の軽い運動や ニユースポーツ	その他の競技的スポーツ	実施していない	無回答
10・20代	—	—	6.8	13.5	—	—	23.0	4.1	9.5	—	5.4	6.8	8.1	8.1	5.4	—	9.5	5.4	13.5
30代	—	—	9.5	16.8	—	—	23.2	4.2	12.6	—	3.2	4.2	2.1	7.4	7.4	—	3.2	6.3	21.1
40代	—	0.9	9.6	19.3	—	—	21.9	5.3	13.2	0.9	—	6.1	0.9	12.3	5.3	0.9	6.1	4.4	20.2
50代	—	—	8.9	12.6	—	—	17.0	1.5	14.8	0.7	3.0	3.7	2.2	9.6	5.9	0.7	8.1	5.2	17.0
60代	—	—	21.2	9.4	—	—	18.8	3.5	11.8	2.4	1.2	4.7	—	4.7	—	—	1.2	2.4	27.1
70代以上	1.1	2.2	15.1	7.5	2.2	—	14.0	3.2	14.0	4.3	4.3	7.5	5.4	4.3	2.2	—	2.2	4.3	46.2

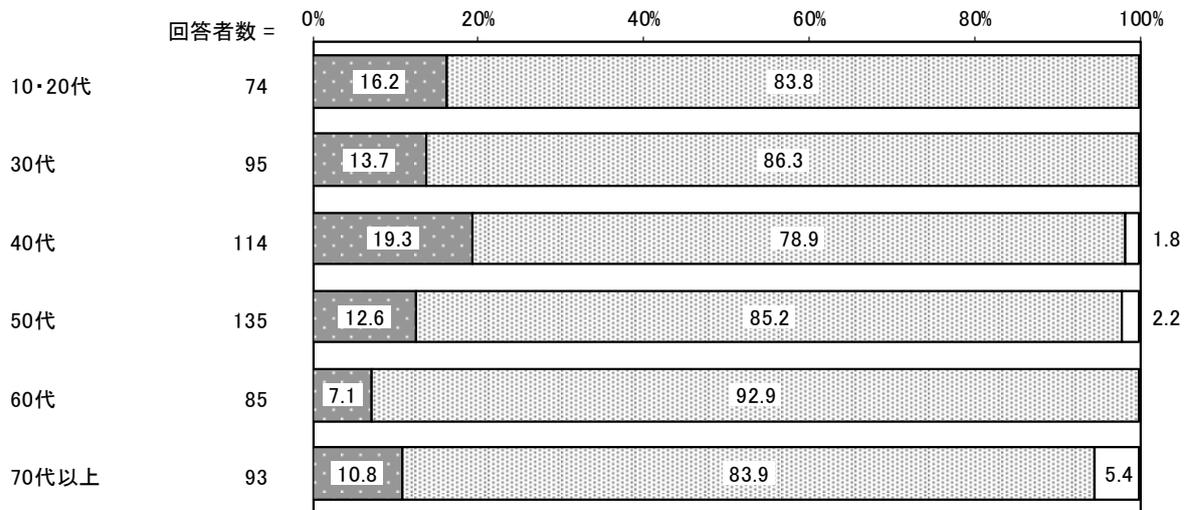
問 12 小田原市内で入場料を支払ってスポーツ観戦をしたことがありますか。

「ある」の割合が 13.4%、「ない」の割合が 84.9%となっています。



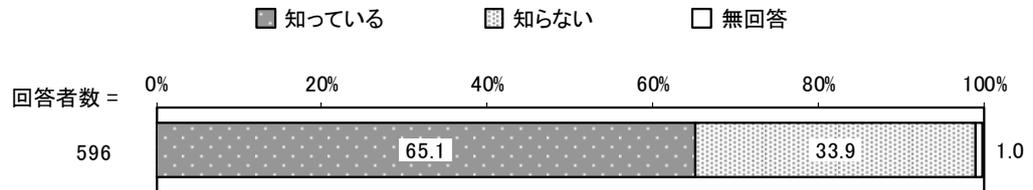
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代で「ある」の割合が高く、約2割となっています。



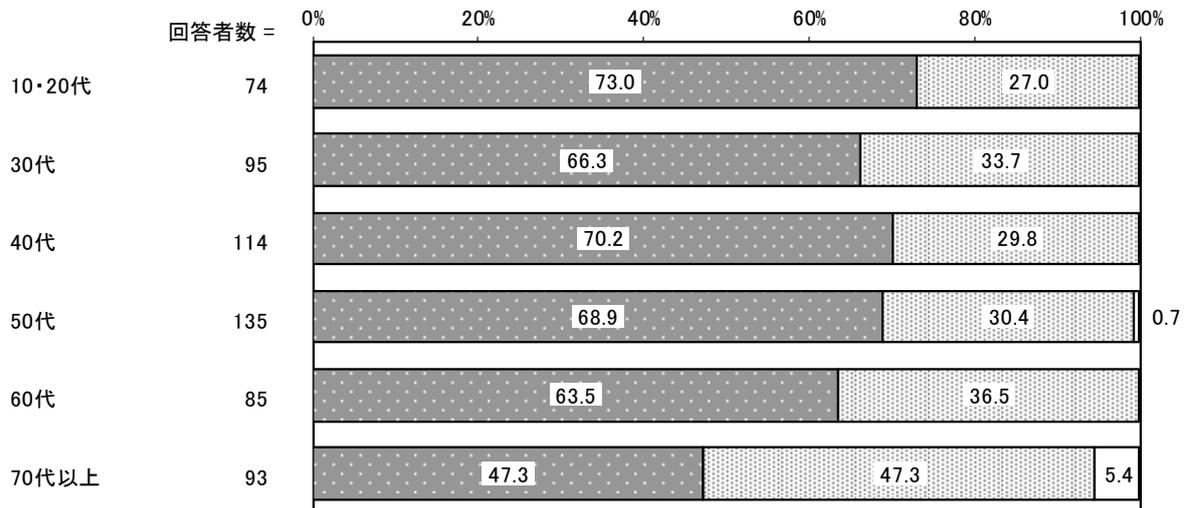
問 13 本市をホームタウンとして活動しているフットサルチーム「湘南ベルマーレフットサルクラブ」は、小田原アリーナでFリーグの試合を開催するとともに、市内の小学校や幼稚園等でフットサルの巡回教室を実施しています。
あなたは、湘南ベルマーレフットサルクラブを知っていますか。

「知っている」の割合が 65.1%、「知らない」の割合が 33.9%となっています。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、70代以上で「知らない」の割合が高く、約5割となっています。



問 14 どういった環境や機会が整えば、市内でスポーツ観戦したいと思いますか。
(自由記述)

1. カテゴリ別の件数

カテゴリ	件数(件)
環境に関すること	92
入場料(無料)に関すること	33
アクセスに関すること	32
駐車場整備に関すること	21
施設環境に関すること	6
機会に関すること	134
競技や選手等に関すること	73
こどもの参加に関すること	15
コロナウイルス感染症に関すること	14
休日に関すること	12
テナントやイベントに関すること	11
友人・知人に関すること	9
その他	56
興味がない	19

2. 主な意見

(1) 環境に関すること

- ・入場無料、誰でも自由に見られる。
- ・無料観戦チケットが当たったら、観戦したいと思う。
- ・チケットが楽に入手できれば。
- ・行きやすい場所にあること。駅近くなど。
- ・公共交通機関で観戦できる場所があれば観戦したい。
- ・駐車場など、競技会場周辺の整備。
- ・駐車場の無料環境。
- ・市民の人は無料または減額。
- ・スクリーンなどを通してのパブリックビューイング形式での観戦をしたい。
- ・換気がしっかりできていて、寒くない場所。
- ・きれいな施設なら。

(2) 機会に関すること

- ・全国的、世界的に有名なアスリートが出場する試合。
- ・プロの試合
- ・全国大会等誘致など。
- ・小さい子どもと一緒に気軽に行ける環境。
- ・キッズスペースなどがあるところ。きれいなトイレ。
(おむつ替えスペースがたくさんあると助かる)。
- ・コロナウイルス感染症が落ち着けば観戦したい。
- ・コロナ対策が万全。

- ・感染症がピークでないときであれば行きたい。
- ・自分の仕事が休みの日で、見たい選手やチームがあれば観戦に行きたい。
- ・もっと休日が増えれば。
- ・アリーナの駐車場などに全国のフードコートイベントなどあれば。
- ・スポーツだけではなく、フードコートやショップが同時に楽しめれば。
- ・友人などが出場していたら観戦したい。

(3) その他

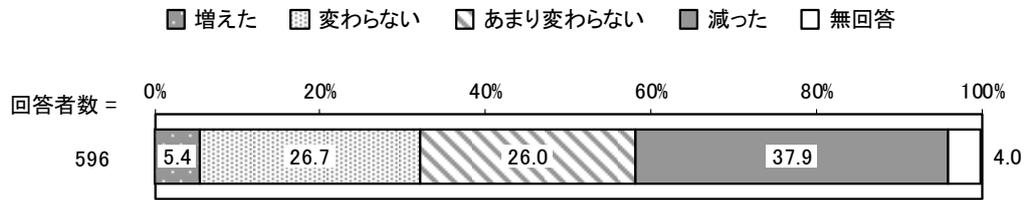
- ・開催されるとの情報が、誰でも簡単に手に入るような環境。
- ・観戦より、自分が体を動かす方がよい。
- ・広報等で市が応援、力を入れていることを知らせてほしい。

(4) 興味がない

- ・スポーツ観戦に興味がない。
- ・スポーツ観戦はしない。

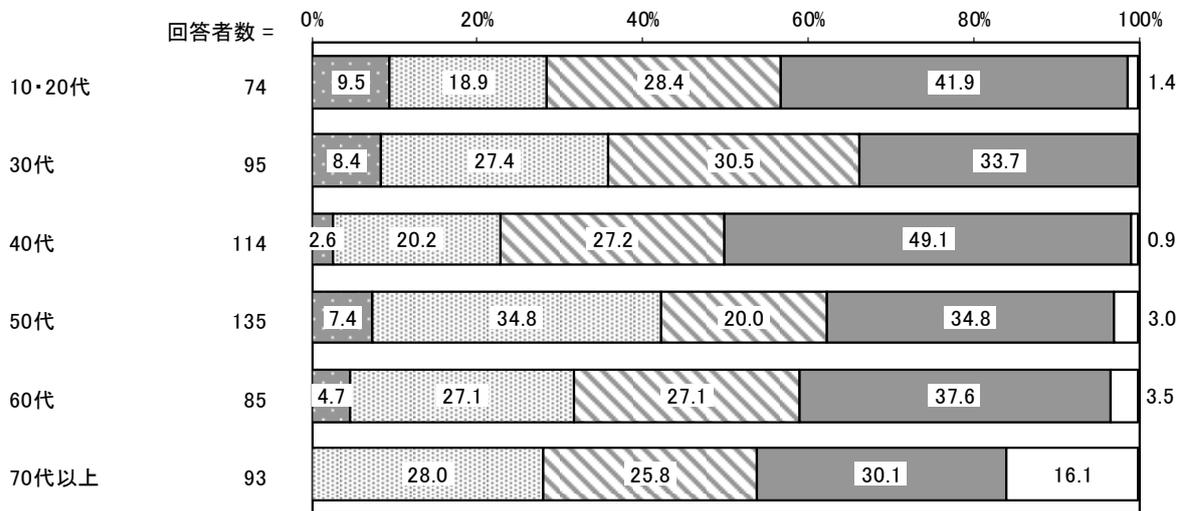
問 15 新型コロナウイルス感染症の影響で、運動・スポーツの実施頻度は変わりましたか。

「減った」の割合が 37.9%と最も高く、次いで「変わらない」の割合が 26.7%、「あまり変わらない」の割合が 26.0%となっています。



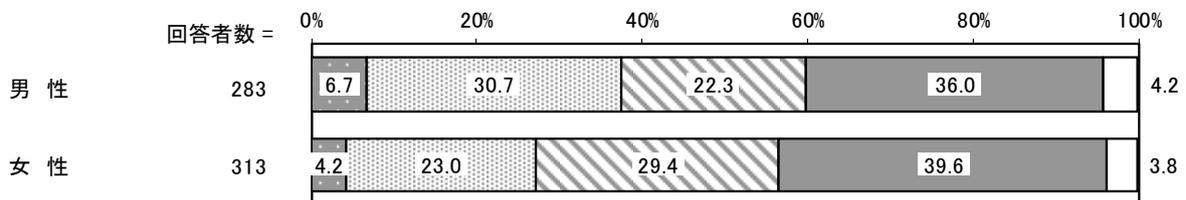
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代で「減った」の割合が高く、約5割となっています。また、50代で「変わらない」の割合が高く、3割半ばとなっています。



【性別】

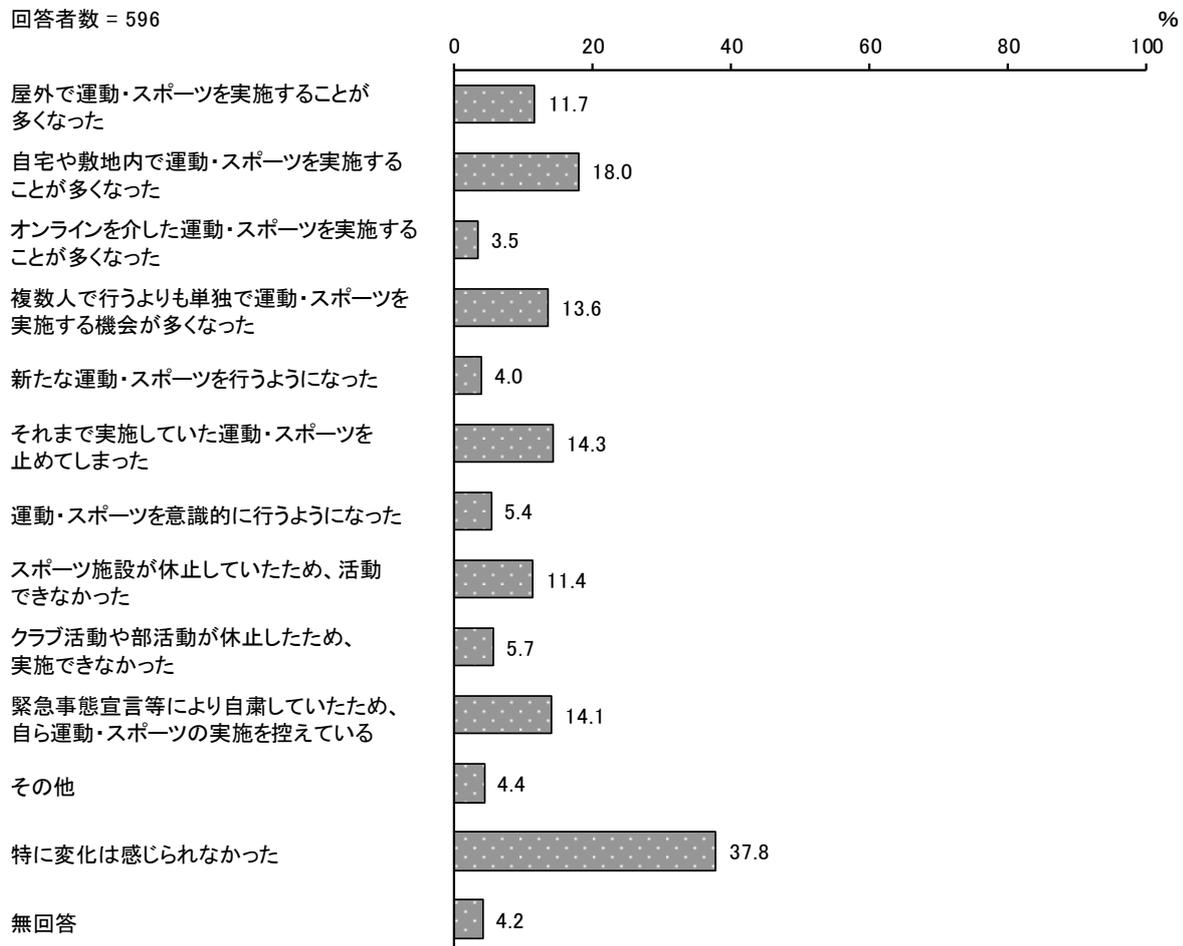
性別でみると、男女とも「減った」の割合が最も高く、3割後半となっています。



問 16 新型コロナウイルス感染症の影響で、運動・スポーツの実施環境に変化はありましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

「特に変化は感じられなかった」の割合が37.8%と最も高く、次いで「自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった」の割合が18.0%、「それまで実施していた運動・スポーツを止めてしまった」の割合が14.3%となっています。

回答者数 = 596



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった」の割合が高く、2割半ばとなっています。また、40代で「それまで実施していた運動・スポーツを止めてしまった」の割合が高く、2割強となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	屋外で運動・スポーツを実施することが多くなった	自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった	オンラインを介した運動・スポーツを実施することが多くなった	複数人で行うよりも単独で運動・スポーツを実施する機会が多くなった	新たな運動・スポーツを行うようになった	運動・スポーツを意識的に行うようになった
10・20代	74	12.2	17.6	1.4	16.2	4.1	6.8
30代	95	15.8	24.2	7.4	17.9	6.3	4.2
40代	114	10.5	14.9	4.4	14.9	4.4	2.6
50代	135	9.6	14.8	3.7	10.4	4.4	8.1
60代	85	11.8	21.2	2.4	14.1	3.5	7.1
70代以上	93	11.8	17.2	1.1	9.7	1.1	3.2

区分	それまで実施していた運動・スポーツを止めてしまった	スポーツ施設が休止していたため、活動できなかった	クラブ活動や部活動が休止したため、実施できなかった	緊急事態宣言等により自粛していたため、自ら運動・スポーツの実施を控えている	その他	特に変化は感じられなかった	無回答
10・20代	17.6	14.9	13.5	18.9	1.4	31.1	1.4
30代	13.7	9.5	10.5	7.4	3.2	36.8	2.1
40代	21.9	15.8	8.8	22.8	5.3	36.8	—
50代	10.4	10.4	2.2	9.6	8.1	45.2	1.5
60代	16.5	11.8	1.2	18.8	2.4	35.3	4.7
70代以上	6.5	6.5	—	8.6	3.2	36.6	17.2

【新型コロナウイルス感染症の影響による運動・スポーツの実施頻度の変化別】

新型コロナウイルス感染症の影響による運動・スポーツの実施頻度の変化別でみると、実施頻度が増えた人で「自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった」が5割と最も高くなっています。

一方、頻度が減った人で「それまで実施していた運動・スポーツを止めてしまった」の割合が3割を超え、最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	屋外で運動・スポーツを実施することが多くなった	自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった	オンラインを介した運動・スポーツを実施することが多くなった	複数人で行うよりも単独で運動・スポーツを実施する機会が多くなった	新たな運動・スポーツを行うようになった	運動・スポーツを意識的に行うようになった
増えた	32	43.8	50.0	15.6	31.3	25.0	31.3
変わらない	159	3.8	5.7	1.3	3.1	0.6	1.9
あまり変わらない	155	10.3	18.7	2.6	12.9	3.9	8.4
減った	226	14.6	21.7	4.0	20.4	4.0	2.2

区分	それまで実施していた運動・スポーツを止めてしまった	スポーツ施設が休止していたため、活動できなかった	クラブ活動や部活動が休止したため、実施できなかった	緊急事態宣言等により自粛していたため、自ら運動・スポーツの実施を控えている	その他	特に変化は感じられなかった	無回答
増えた	6.3	3.1	—	—	—	12.5	—
変わらない	1.3	1.9	—	4.4	4.4	79.2	2.5
あまり変わらない	3.9	8.4	3.9	5.8	2.6	47.1	1.3
減った	33.2	22.6	12.4	29.6	6.2	9.3	1.3

3 スポーツ施設について

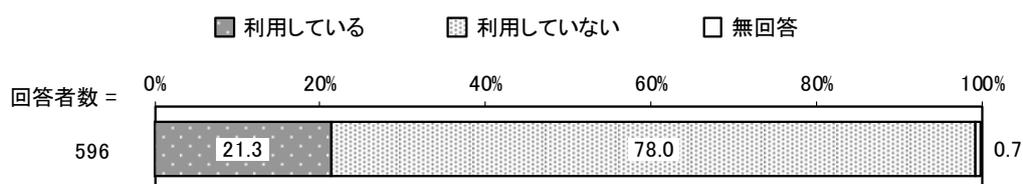
問 17 あなたは、小田原市内の公共スポーツ施設(施設一覧は依頼文の裏面)をスポーツ実施のために利用していますか。

利用している場合は、実施している運動スポーツを依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から選んで、番号を記載してください。(複数回答可)

また、そのスポーツのために施設を利用する頻度及び交通手段について、当てはまるものに○をしてください。そして、その主な活動場所を依頼文の裏面【小田原市内の公共スポーツ施設一覧】から選び番号を記載してください。

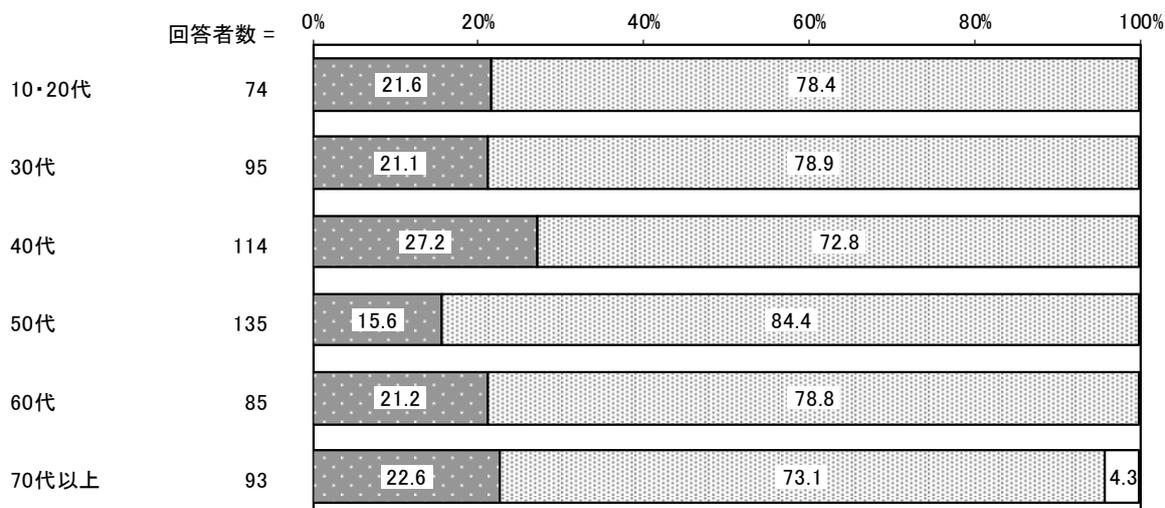
(複数回答可)

「利用している」の割合が 21.3%、「利用していない」の割合が 78.0%となっています。



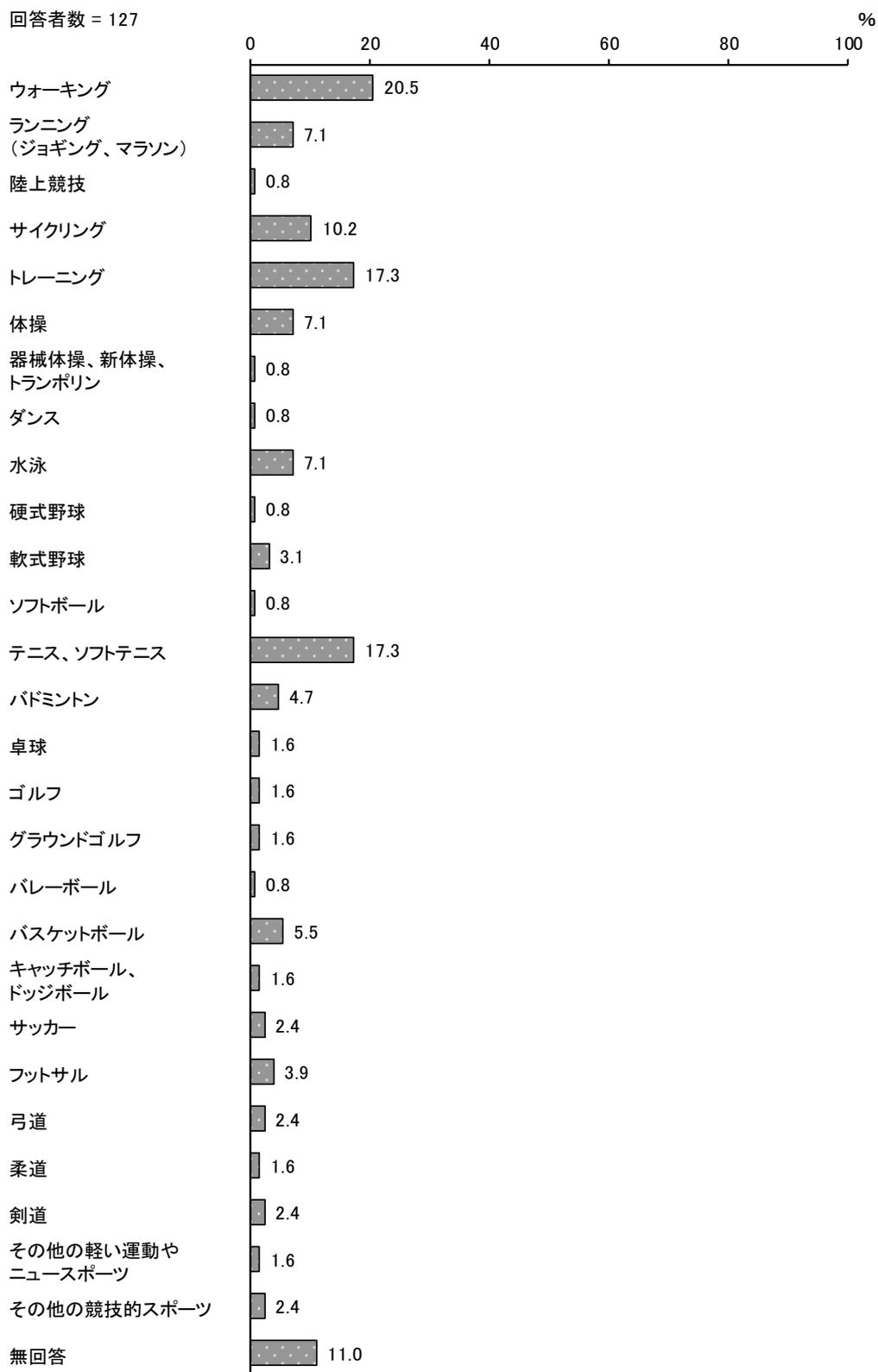
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代で「利用している」の割合が高く、約3割となっています。また、50代で「利用していない」の割合が高く、8割半ばとなっています。



1. 運動・スポーツ

「ウォーキング」の割合が20.5%と最も高く、次いで「トレーニング」、「テニス、ソフトテニス」の割合が17.3%となっています。



※回答者数が0のスポーツは割愛

2. 頻度

単位：%

区分	回答者数 (件)	週に 1回	月に 1～2 回程度	半年に 数回程度	年に 1回程度	無回答
ウォーキング	30	33.3	33.3	23.3	6.7	3.3
ランニング（ジョギング、マラソン）	9	44.4	11.1	22.2	11.1	11.1
陸上競技	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
サイクリング	14	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0
トレーニング	23	39.1	34.8	13.0	13.0	0.0
体操	9	88.9	0.0	0.0	11.1	0.0
器械体操、新体操、トランポリン	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
ダンス	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	9	0.0	22.2	55.6	22.2	0.0
硬式野球	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
軟式野球	4	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0
ソフトボール	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
テニス、ソフトテニス	27	14.8	33.3	22.2	29.6	0.0
バドミントン	6	16.7	0.0	83.3	0.0	0.0
卓球	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
ゴルフ	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
グラウンドゴルフ	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
バレーボール	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
バスケットボール	8	0.0	12.5	87.5	0.0	0.0
キャッチボール、ドッジボール	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
サッカー	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
フットサル	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0
弓道	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
柔道	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
剣道	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
その他の軽い運動やニュースポーツ	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

3. 交通手段

単位：％

区分	回答者数 (件)	徒歩	電車	自家用車	自転車	自動二輪車	タクシー	その他	無回答
ウォーキング	30	20.0	0.0	53.3	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	9	22.2	0.0	44.4	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1
陸上競技	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サイクリング	14	0.0	0.0	28.6	50.0	0.0	0.0	0.0	21.4
トレーニング	23	0.0	0.0	65.2	13.0	8.7	0.0	0.0	13.0
体操	9	22.2	0.0	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
器械体操、新体操、トランポリン	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ダンス	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	9	0.0	0.0	77.8	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
硬式野球	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
軟式野球	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
テニス、ソフトテニス	27	0.0	0.0	63.0	29.6	3.7	0.0	0.0	3.7
バドミントン	6	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
卓球	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
ゴルフ	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グラウンドゴルフ	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バレーボール	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バスケットボール	8	0.0	0.0	75.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0
キャッチボール、ドッジボール	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
サッカー	4	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
フットサル	5	0.0	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
弓道	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
柔道	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
剣道	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
その他の軽い運動やニュースポーツ	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

4. 主な活動場所

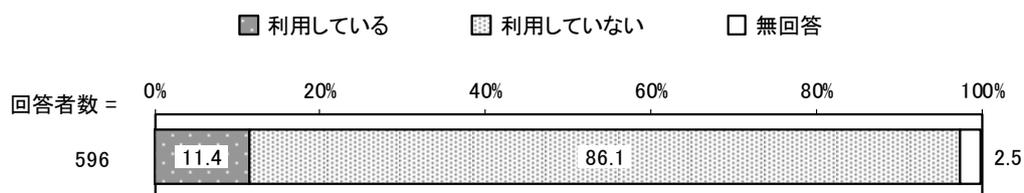
単位：％

区分	回答者数 (件)	県立西湘スポーツセンター	小田原アリーナ	小田原市総合文化体育館・ 小田原テニスガーデン	城山庭球場	小峰庭球場	小田原スポーツ会館	城山陸上競技場	酒匂川スポーツ広場	鴨宮運動広場	上府中公園スポーツ広場	小田原球場	酒匂川左岸サイクリング場	御幸の浜プール	城内弓道場	コース	小田原市酒匂川サイクリング	無回答
ウォーキング	30	3.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	33.3	3.3	3.3	0.0	0.0	30.0	6.7	
ランニング (ジョギング、マラソン)	9	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	
陸上競技	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
サイクリング	14	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	21.4	0.0	0.0	57.1	0.0	
トレーニング	23	0.0	78.3	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	
体操	9	11.1	77.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	
器械体操、新体操、トランポリン	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
ダンス	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
水泳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	0.0	0.0	0.0	11.1	
硬式野球	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
軟式野球	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
ソフトボール	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
テニス、ソフトテニス	27	18.5	0.0	63.0	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	
バドミントン	6	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
卓球	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ゴルフ	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
グラウンドゴルフ	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
バレーボール	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
バスケットボール	8	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	
キャッチボール、ドッジボール	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
サッカー	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
フットサル	5	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
弓道	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	
柔道	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
剣道	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他の軽い運動や ニュースポーツ	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他の競技的スポーツ	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

※回答者数が0のスポーツは割愛

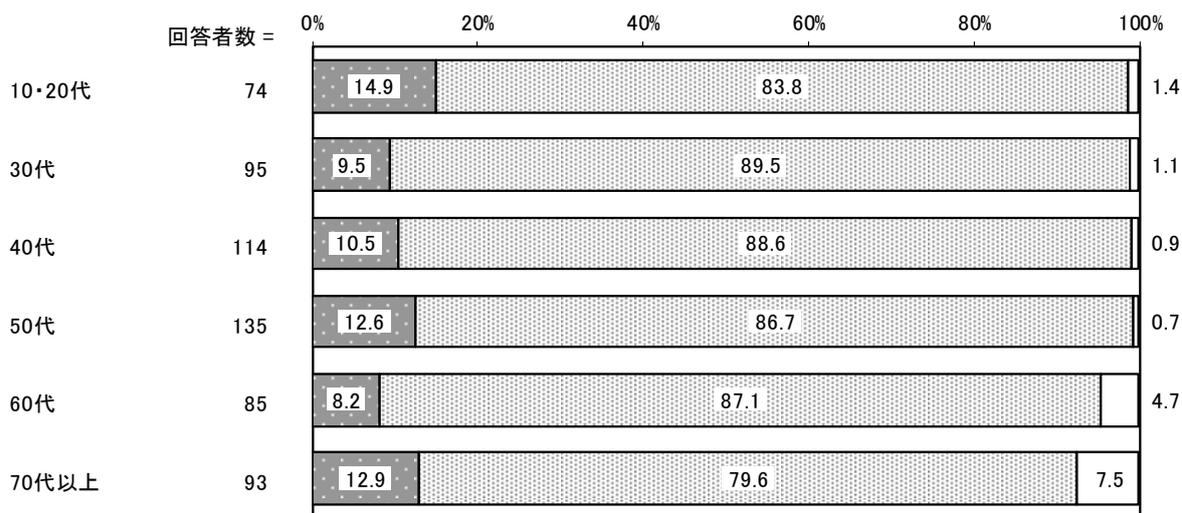
問 18 あなたは、小田原市内の民間スポーツ施設をスポーツ実施のために利用していますか。利用している場合は、実施している運動・スポーツを依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から選んで、番号を記載してください。
 (運動・スポーツは、3つまで選択可能です。)(複数回答可)
 また、そのスポーツのために施設を利用する頻度及び交通手段について、当てはまるものに○をしてください。

「利用している」の割合が 11.4%、「利用していない」の割合が 86.1%となっています。



【年代別】

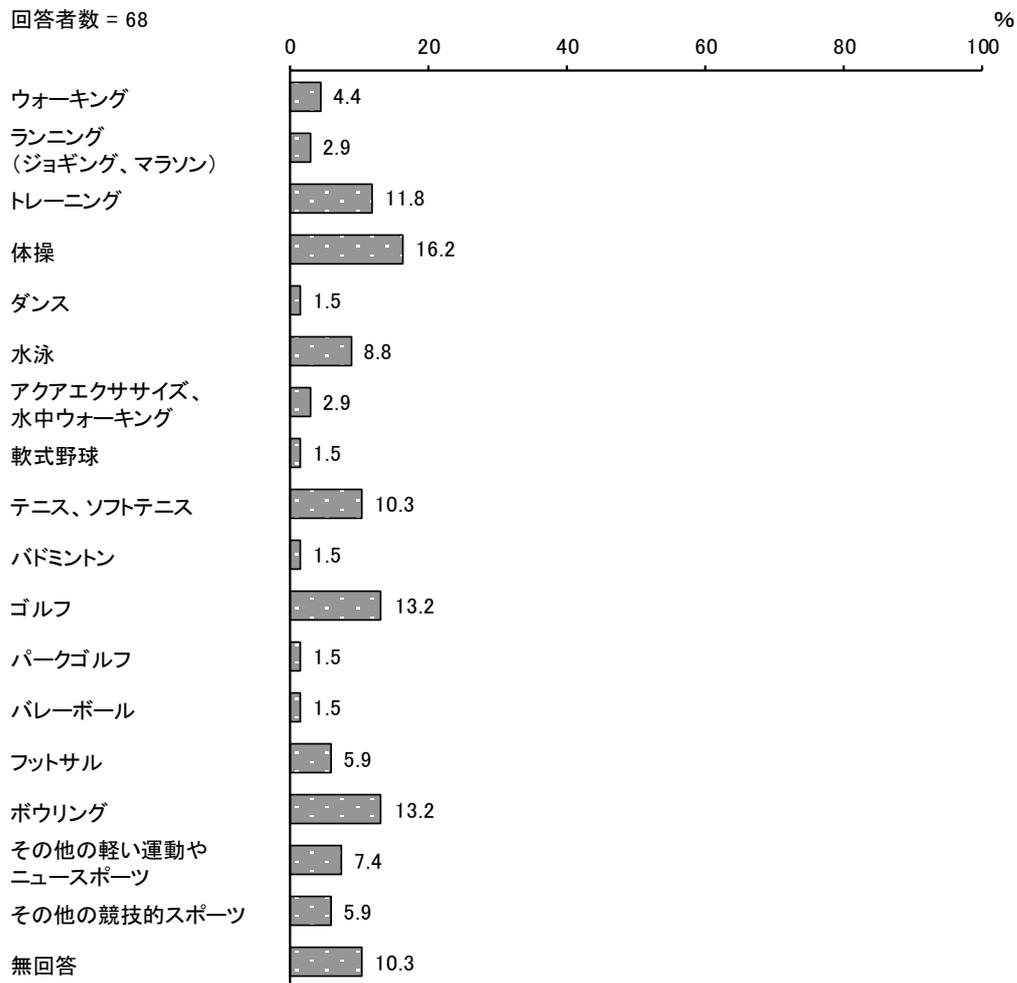
年代別でみると、他に比べ、30代、40代で「利用していない」の割合が高く、約9割となっています。



1. 運動・スポーツ

「体操」の割合が16.2%と最も高く、次いで「ゴルフ」、「ボウリング」の割合が13.2%となっています。

回答者数 = 68



※回答者数が0のスポーツは割愛

2. 頻度

単位：%

区分	回答者数 (件)	週に 1回	月に 1～2 回程度	半年に 数回程度	年に 1回程度	無 回答
ウォーキング	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
トレーニング	8	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0
体操	12	83.3	8.3	0.0	8.3	0.0
ダンス	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	6	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
アクアエクササイズ、水中ウォーキング	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
軟式野球	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
テニス、ソフトテニス	7	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0
バドミントン	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
ゴルフ	9	44.4	33.3	0.0	22.2	0.0
パークゴルフ	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
バレーボール	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フットサル	4	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
ボウリング	9	33.3	22.2	0.0	44.4	0.0
その他の軽い運動やニュースポーツ	6	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0
その他の競技的スポーツ	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

3. 交通手段

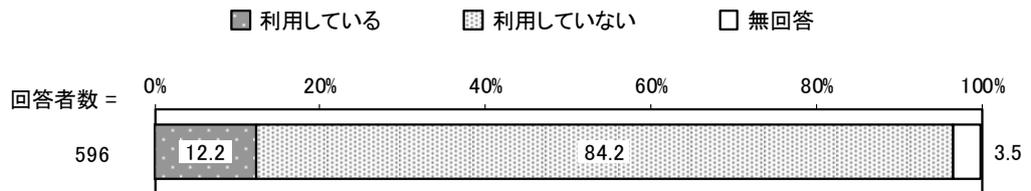
単位：%

区分	回答者数 (件)	徒歩	電車	自家用車	自転車	自動二輪車	タクシー	その他	無 回答
ウォーキング	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
トレーニング	8	12.5	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
体操	12	25.0	0.0	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
ダンス	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	6	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
アクアエクササイズ、水中ウォーキング	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
軟式野球	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
テニス、ソフトテニス	7	0.0	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
バドミントン	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ゴルフ	9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パークゴルフ	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
バレーボール	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フットサル	4	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
ボウリング	9	0.0	0.0	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の軽い運動やニュースポーツ	6	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

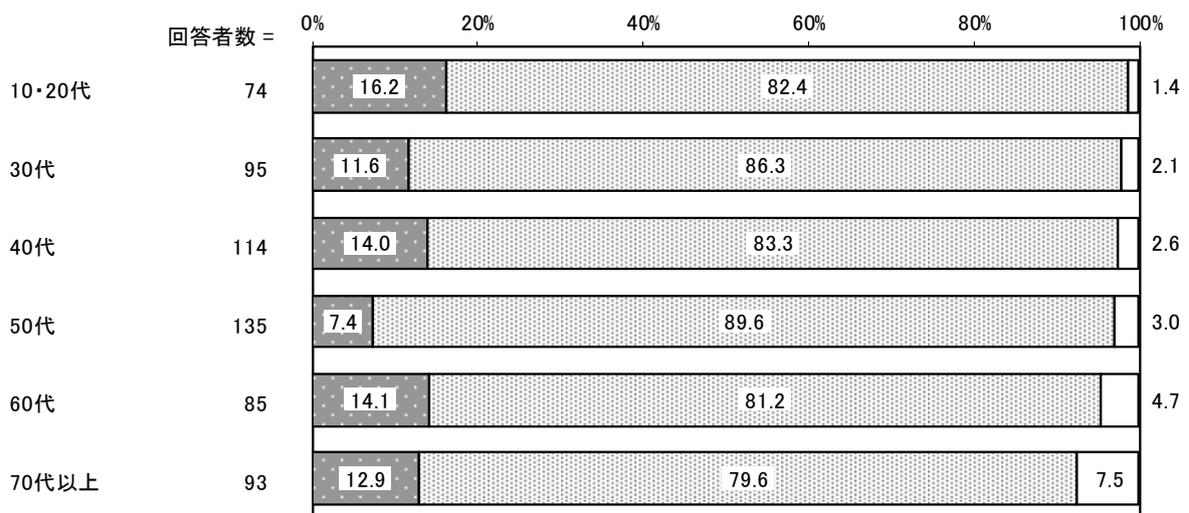
問 19 あなたは、小田原市外の公共・民間スポーツ施設をスポーツ実施のために利用していますか。利用している場合は、実施している運動・スポーツを依頼文の裏面【運動・スポーツ一覧】から選んで、番号を記載してください。
 (運動・スポーツは、3つまで選択可能です。)(複数回答可)
 また、そのスポーツのために施設を利用する頻度、あなたの交通手段及びその施設がある地域について、当てはまるものに○をしてください。

「利用している」の割合が 12.2%、「利用していない」の割合が 84.2%となっています。



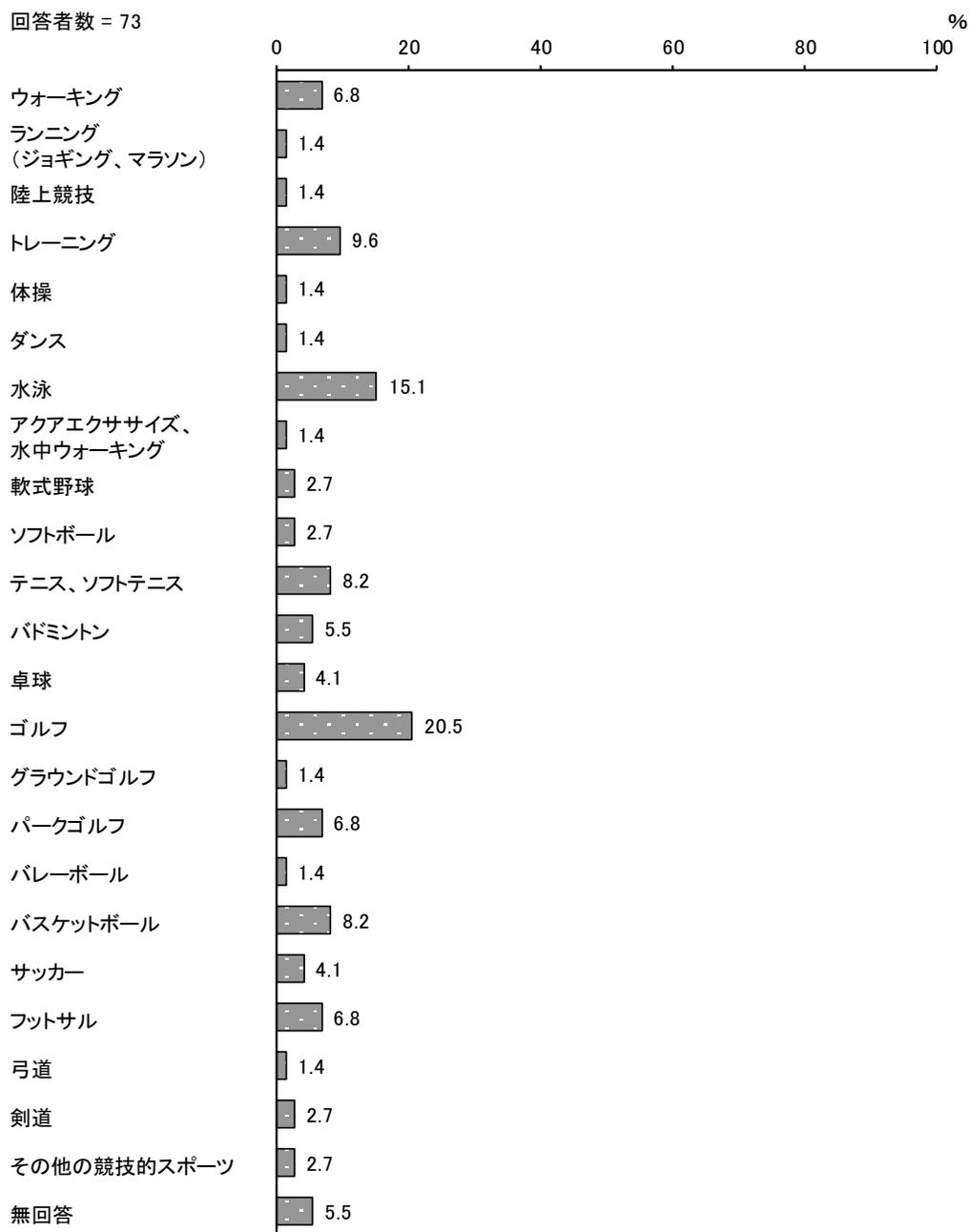
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50代で「利用していない」の割合が高く、約9割となっています。



1. 運動・スポーツ

「ゴルフ」の割合が20.5%と最も高く、次いで「水泳」の割合が15.1%となっています。



※回答者数が0のスポーツは割愛

2. 頻度

単位：％

区分	回答者数 (件)	週に 1回	月に 1～2 回程度	半年に 数回程度	年に 1回程度	無 回答
ウォーキング	5	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
陸上競技	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
トレーニング	7	14.3	0.0	85.7	0.0	0.0
体操	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ダンス	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	13	0.0	0.0	46.2	46.2	7.7
アクアエクササイズ、水中ウォーキング	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
軟式野球	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
ソフトボール	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
テニス、ソフトテニス	6	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0
バドミントン	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
卓球	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
ゴルフ	15	13.3	60.0	13.3	13.3	0.0
グラウンドゴルフ	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
パークゴルフ	5	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0
バレーボール	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
バスケットボール	6	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0
サッカー	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
フットサル	7	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3
弓道	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
剣道	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

3. 交通手段

単位：％

区分	回答者数 (件)	徒歩	電車	自家用車	自転車	自動二輪車	タクシー	その他	無回答
ウォーキング	5	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
陸上競技	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
トレーニング	7	0.0	0.0	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
体操	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ダンス	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水泳	13	0.0	15.4	84.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アクアエクササイズ、水中ウォーキング	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
軟式野球	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ソフトボール	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
テニス、ソフトテニス	6	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バドミントン	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卓球	3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴルフ	15	0.0	0.0	93.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
グラウンドゴルフ	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パークゴルフ	5	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
バレーボール	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
バスケットボール	6	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
サッカー	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
フットサル	7	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
弓道	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
剣道	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※回答者数が0のスポーツは割愛

4. その施設がある地域

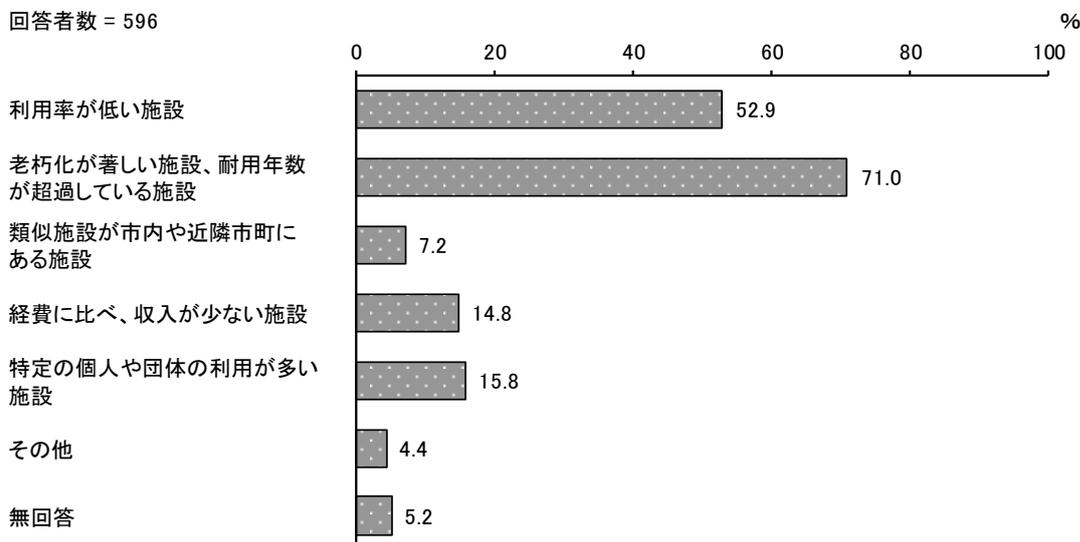
単位：％

区分	回答者数 (件)	1市9町	1市9町以外の 神奈川県内	神奈川県外	無回答
ウォーキング	5	80.0	0.0	0.0	20.0
ランニング（ジョギング、マラソン）	1	100.0	0.0	0.0	0.0
陸上競技	1	0.0	100.0	0.0	0.0
トレーニング	7	85.7	0.0	14.3	0.0
体操	1	100.0	0.0	0.0	0.0
ダンス	1	100.0	0.0	0.0	0.0
水泳	13	38.5	23.1	7.7	30.8
アクアエクササイズ、水中ウォーキング	1	100.0	0.0	0.0	0.0
軟式野球	3	66.7	33.3	0.0	0.0
ソフトボール	2	50.0	50.0	0.0	0.0
テニス、ソフトテニス	6	66.7	33.3	0.0	0.0
バドミントン	4	25.0	50.0	25.0	0.0
卓球	3	33.3	0.0	66.7	0.0
ゴルフ	15	33.3	13.3	26.7	26.7
グラウンドゴルフ	1	0.0	0.0	100.0	0.0
パークゴルフ	5	80.0	0.0	0.0	20.0
バレーボール	1	100.0	0.0	0.0	0.0
バスケットボール	6	83.3	16.7	0.0	0.0
サッカー	3	0.0	66.7	33.3	0.0
フットサル	7	42.9	14.3	28.6	14.3
弓道	1	100.0	0.0	0.0	0.0
剣道	2	50.0	50.0	0.0	0.0
その他の競技的スポーツ	3	33.3	0.0	0.0	66.7

※回答者数が0のスポーツは割愛

問 20 公共スポーツ施設の見直しを行う際には、どのような施設を優先して見直すべき
 と思いますか。あなたの考えに近いもの2つに○をしてください。(複数回答可)

「老朽化が著しい施設、耐用年数が超過している施設」の割合が71.0%と最も高く、次いで「利用率が低い施設」の割合が52.9%、「特定の個人や団体の利用が多い施設」の割合が15.8%となっています。



【年代別】

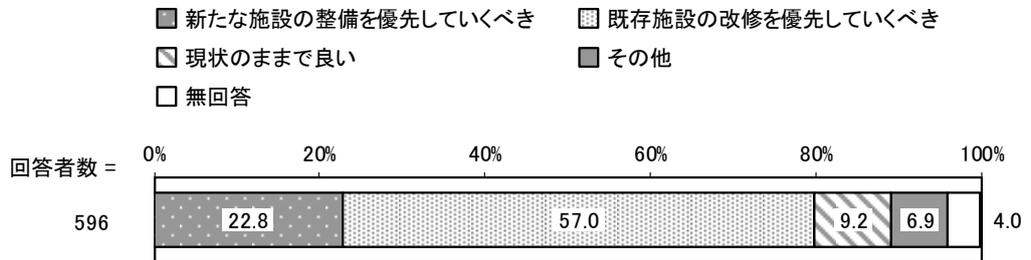
年代別でみると、30代以上では、年代が下がるにつれ「老朽化が著しい施設、耐用年数が超過している施設」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、40代で「利用率が低い施設」の割合が高く、約6割となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	利用率が低い施設	老朽化が著しい施設、耐用年数が超過している施設	類似施設が市内や近隣市町にある施設	経費に比べ、収入が少ない施設	特定の個人や団体の利用が多い施設	その他	無回答
10・20代	74	47.3	79.7	5.4	18.9	13.5	10.8	—
30代	95	49.5	81.1	10.5	12.6	10.5	3.2	2.1
40代	114	58.8	77.2	6.1	18.4	18.4	3.5	0.9
50代	135	54.1	74.8	5.2	15.6	17.0	3.7	1.5
60代	85	55.3	63.5	10.6	15.3	18.8	1.2	8.2
70代以上	93	49.5	47.3	6.5	7.5	15.1	5.4	20.4

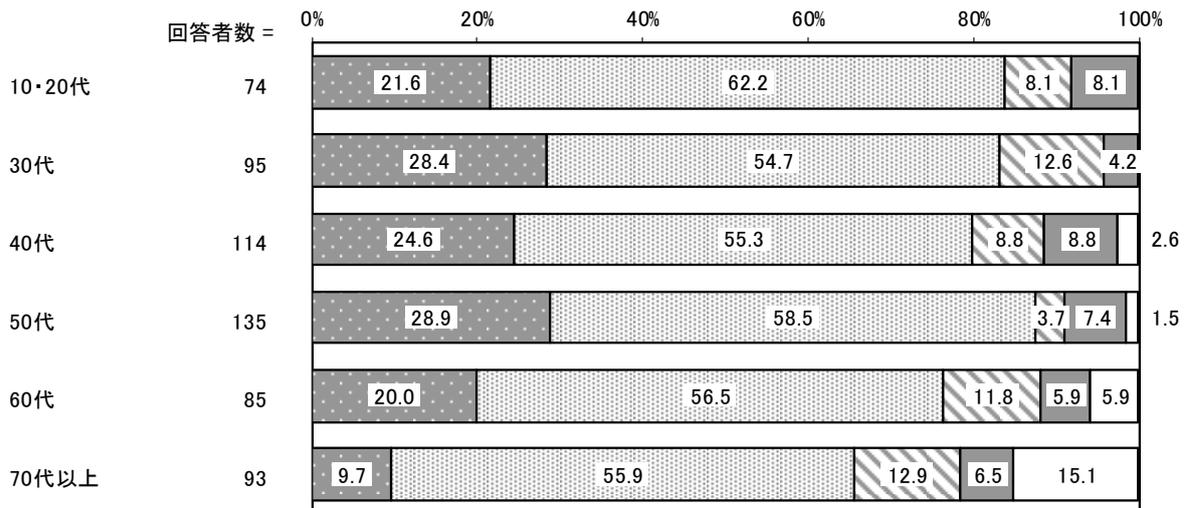
問 21 小田原市における今後の公共スポーツ施設の整備について、あなたの考えに近いもの1つに○をしてください。

「既存施設の改修を優先していくべき」の割合が57.0%と最も高く、次いで「新たな施設の整備を優先していくべき」の割合が22.8%となっています。



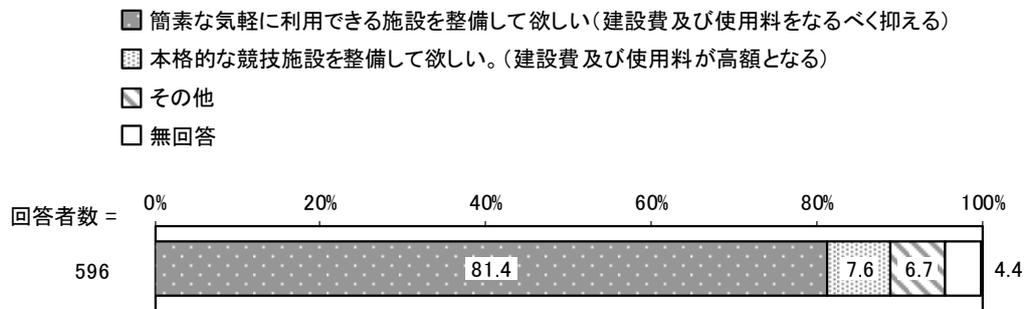
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、10・20代で「既存施設の改修を優先していくべき」の割合が高く、6割を超えています。また、30代、50代で「新たな施設の整備を優先していくべき」の割合が高く、約3割となっています。



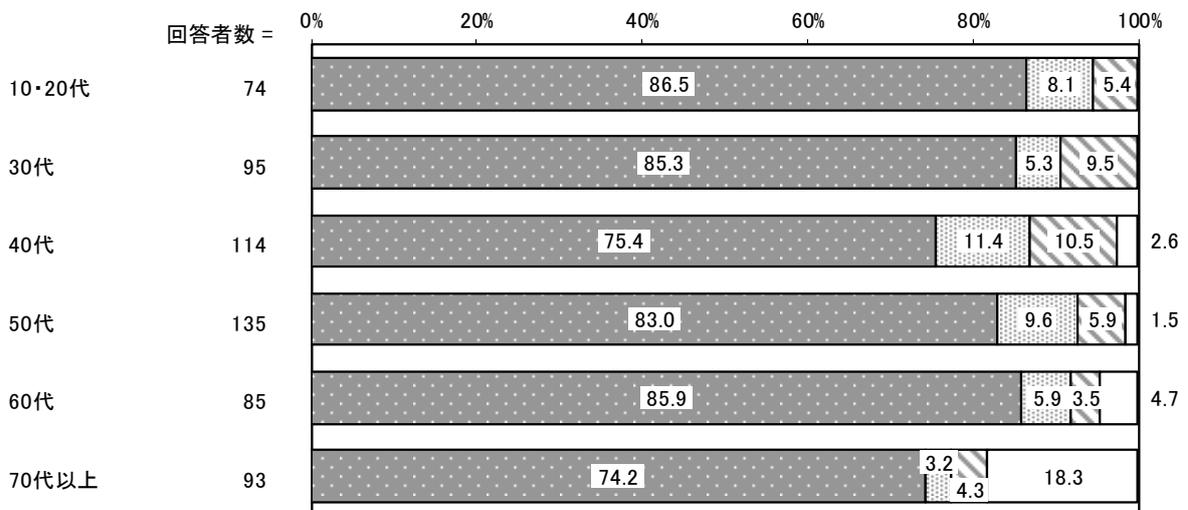
問 22 あなたは、小田原市におけるこれからの公共スポーツ施設づくりについて、あなたの考えに近いもの1つに○をしてください。

「簡素な気軽に利用できる施設を整備して欲しい（建設費及び使用料をなるべく抑える）」の割合が 81.4%、「本格的な競技施設を整備して欲しい。（建設費及び使用料が高額となる）」の割合が 7.6%となっています。



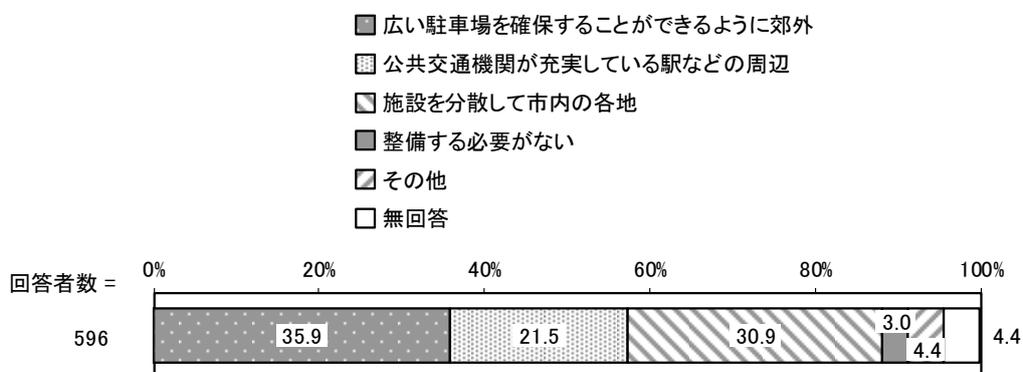
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、10・20代、30代、60代で「簡素な気軽に利用できる施設を整備して欲しい（建設費及び使用料をなるべく抑える）」の割合が高く、8割半ばとなっています。



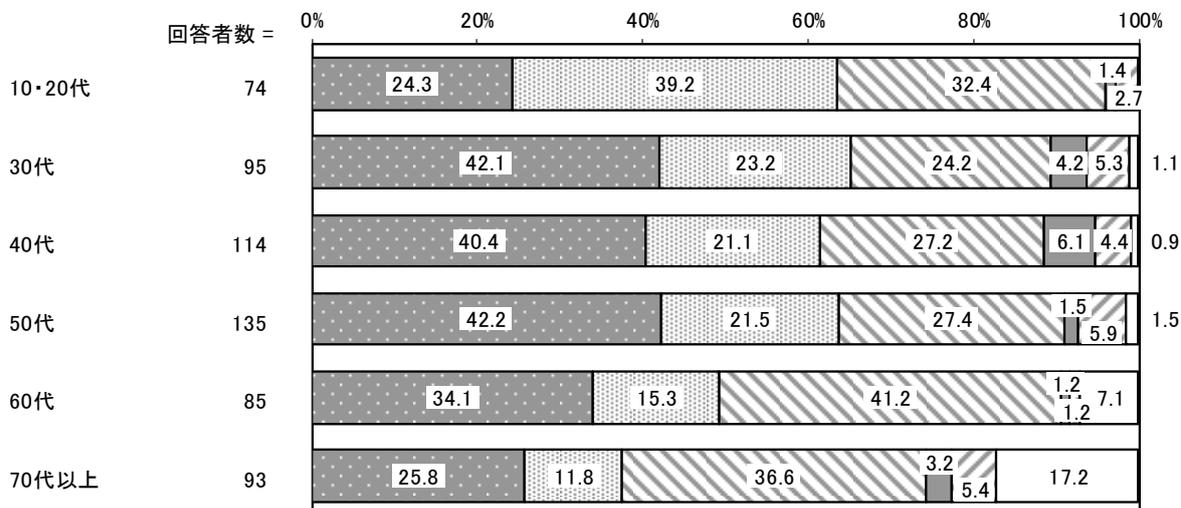
問 23 公共スポーツ施設を整備する際の立地について、あなたの考えに近いもの1つに○をしてください。

「広い駐車場を確保することができるように郊外」の割合が35.9%と最も高く、次いで「施設を分散して市内の各地」の割合が30.9%、「公共交通機関が充実している駅などの周辺」の割合が21.5%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、10・20代で「公共交通機関が充実している駅などの周辺」の割合が、30代から50代で「広い駐車場を確保することができるように郊外」の割合が、60代以上で「施設を分散して市内の各地」の割合が高く、それぞれ約4割となっています。



子ども・子育て支援の充実について

1 趣 旨

本市では、総合計画「2030ロードマップ1.0」の重点施策に「教育・子育て」を位置付け、その取組の一つとして「子ども・子育て支援」を掲げ、妊娠期から出産、子育てなどに関する親の不安や悩みを、誰もが気軽に相談できる体制を確立し、安心して子育てができる環境の実現を目指している。

また現在、「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しを行うとともに、これに合わせ、「子どもの貧困対策推進計画」を包含した計画へと改定作業を進めているが、子ども・子育て支援のさらなる充実を図る新たな取組を、「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」に位置付け、実施していく。

2 取組の内容

(1) おだわら子ども若者教育支援センター運営事業（児童福祉と母子保健の連携強化）

令和4年（2022年）6月に児童福祉法が改正され、「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」の組織を見直し、児童福祉と母子保健の一体的支援を行う機能を有する「こども家庭センター」の設置が、令和6年（2024年）4月から市町村の努力義務となる。

こうした国の動向を踏まえ、「おだわら子ども若者教育支援センター」が有する、乳幼児期から学齢期・青壮年期における相談支援機能に、新たに妊娠期の相談支援機能を集約することにより、切れ目のない総合的なサービスの充実を図る。

そのため、児童福祉と母子保健との一体化を視野に入れた、さらなる連携により相談支援機能を強化していく。

(2) 出産・子育て応援事業

妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型の相談支援を充実するとともに、経済的支援を一体として実施する。

(3) 子育て短期支援事業（トワイライトステイ、ショートステイ）

「地域子ども・子育て支援事業」の一環として、夜間に子どもの保育を行うことができない場合や、保護者の疾病その他の理由により、家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合等に、児童を施設等において一定期間の預かりを行う。

3 その他

- ・ファミリー・サポート・センターによる子育て支援において、ひとり親家庭等の経済的負担を軽減し、利用を促進する施策を検討する。
- ・新たな取組については、子ども・子育て会議で御審議いただいた上で、「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」へ位置付ける。

(仮称) 橘地域認定こども園整備基本計画について

橘地域における認定こども園整備については、今後の設計や建設工事の諸課題を整理するため、「(仮称) 橘地域認定こども園整備基本計画」を令和4年(2022年)12月に策定した。

1 コンセプトと基本方針

(1) コンセプト

子ども主体の教育・保育の実践を通じ、主体性や創造性などを育む質の高い幼児教育・保育を提供する。橘地域の恵まれた自然と触れ合い、木のぬくもりに包まれながら、地域のひとたちや学校と連携し、地域に根差した活動を行う。

(2) 基本方針

子どもたちの主体性を伸ばし育むことができ、使いやすく安心・安全な施設とすることを基本とし、今後、公共建築物として脱炭素化社会の実現に資することが強く求められることから、脱炭素化等に十分配慮した施設とすることや、子どもたちにとって温かみを感じられる施設整備を目指す。

① 安心・安全でぬくもりやゆとりを感じられる施設

- ・教育、保育に適したゆとりや安心・安全が確保できる施設
- ・地域産木材を利用し、木のぬくもりを感じられる施設
- ・職員同士の連携、協働が取りやすく働きやすい施設

② 教育・保育の質的向上が図れる施設

- ・支援の必要な子どもの保育がしやすい施設
- ・子どもが自ら主体的、継続的に遊びができる施設

③ 保護者、地域、学校等との連携がしやすい施設

- ・子育て相談や支援機能を持ち、園務システムなど ICT 等の活用により、保護者や地域との情報共有や連携が図りやすい施設
- ・地域に溶け込んだ活動がしやすい施設

④ 地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に寄与する施設

- ・省エネ・創エネ機能を積極的に取り入れた ZEB Oriented (正味エネルギー排出を 30~40%以上削減した建築物) 化相当以上の施設

2 敷地概要

建物用途	幼保連携型認定こども園
計画地	小田原市小船 174-1、174-2（現 下中幼稚園敷地）
敷地面積	1,692.85 m ² （隣接地 369.64 m ² を含む。）
工事種別	新築
用途地域	第1種住居地域
建ぺい率/ 容積率	60 / 200 %
防火地域	準防火地域
その他の 地区・地域	第2種高度地区 景観計画区域 居住誘導区域



3 施設計画

(1) 配置イメージ

認定こども園として採光や園庭との繋がりに配慮するとともに、隣接する小学校の通学等の安全性、駐車場や駐輪場からエントランス部へのアクセス性を考慮し、北側に施設を配置する。



(2) 定員数の設定

橘地域の就学前児童人口や市外の教育・保育施設への就園状況を踏まえるとともに、認定こども園として適切な集団規模を形成できる定員数として、以下の通りとする。

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
保育部（保育認定）	5人	10人	10人	12人	13人	13人	63人
幼稚部（教育認定）	—	—	—	9人	10人	10人	29人
合計	5人	10人	10人	21人	23人	23人	92人

(3) 施設規模及び必要諸室

公立認定こども園として支援が必要な児童等に配慮するなど、余裕を持った計画として面積を算定した。

(※面積については現段階における概算であり、今後の検討により変更となる可能性があります。)

諸室	整備の基本的な考え方	面積
乳児室、ほふく室 保育室、遊戯室、 園児用便所、クール ダウン室	<ul style="list-style-type: none"> 各保育室は、県の認可基準等よりも広く設定する。 支援が必要な児童等に配慮した広さとする。 	470 m ²
調理室、保健室、 職員室	<ul style="list-style-type: none"> 調理、食育しやすい施設配置とする。 食品保管庫、食材搬入専用出入口を設置する。 保健室は職員室に隣接し、ベビーベッド等を配置する。 	105 m ²
付帯施設・共用部 分	<ul style="list-style-type: none"> 図書コーナー、休憩室、更衣室、倉庫、教材庫等 玄関、廊下、ホール等 	335 m ²
子育て支援機能	<ul style="list-style-type: none"> 一時預かり保育機能、相談室 	55 m ²
合計		965 m ²

屋外	整備の基本的な考え方
園庭	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路が整備されるまでは、道路計画部分と一体的に使える園庭とする。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内は付置義務の駐車場、搬入駐車場を基本とする。 保護者送迎用駐車場や職員駐車場は、小学校の通学路や車両の動線に配慮し、安全性を確保するため敷地外に求める。

4 事業計画

(1) 建物の構造

環境に配慮した施設計画とすること、木のぬくもりが感じられる施設とすることなどを踏まえ、木造による整備を目指します。

(2) 事業手法

木造・ZEB・耐火対応など施工者の技術力やノウハウ等を設計段階で活用できること、事業者提案によるコスト削減が期待できること、工期短縮が見込めること、導入機器等を踏まえた設計や納期を見込んだ発注ができるなどメリットが多い「設計施工一括発注方式（デザイン・ビルド方式）」を採用します。

(3) 概算事業費

949,320,000円

(4) 事業スケジュール

年度	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8
基本計画					
設計		 事業者選定			
建築工事					 開園
解体工事					

(仮称)橘地域認定こども園整備基本計画

令和4年12月

小田原市

目 次

1	計画策定の目的と経緯	1
2	基本計画の位置づけ	3
3	現状と課題の整理	4
3.1	橋地域の現状と課題	4
3.2	敷地状況・関係法令の整理	8
3.3	検討のポイント	11
4	施設規模及び整備方針	13
4.1	施設整備のコンセプトと基本方針	13
4.2	定員数の設定	14
4.3	子育て支援機能の整備内容	14
4.4	施設規模の算定	15
5	施設配置	18
5.1	整備方針	18
5.2	配置計画	18
5.3	配置イメージ	19
6	建物の構造と整備手法の選定	20
7	概算事業費	20
8	事業スケジュール	20

1 計画策定の目的と経緯

本市では、橘地域に保育所がない状況や橘地域の公立幼稚園の園児数減少を踏まえ、下中幼稚園の敷地において公立認定こども園の整備を予定しています。

前羽地区と橘北地区にある公立幼稚園2園を統合し、認定こども園を下中幼稚園の敷地に整備する市方針案に対しては様々なご意見をいただきました。

そこで、令和3年度に認定こども園のユーザーである橘地域の子育て世帯を中心にヒアリングやアンケートを実施したところ、認定こども園整備に対し期待する声が多く、また地域の自治会や住民説明会においても一定の理解を得ることができました。

こうしたことを背景に、公立認定こども園の早期開園に向け、今後の設計や建設工事の諸課題を整理するため、この度、「(仮称)橘地域認定こども園整備基本計画」としてとりまとめました。



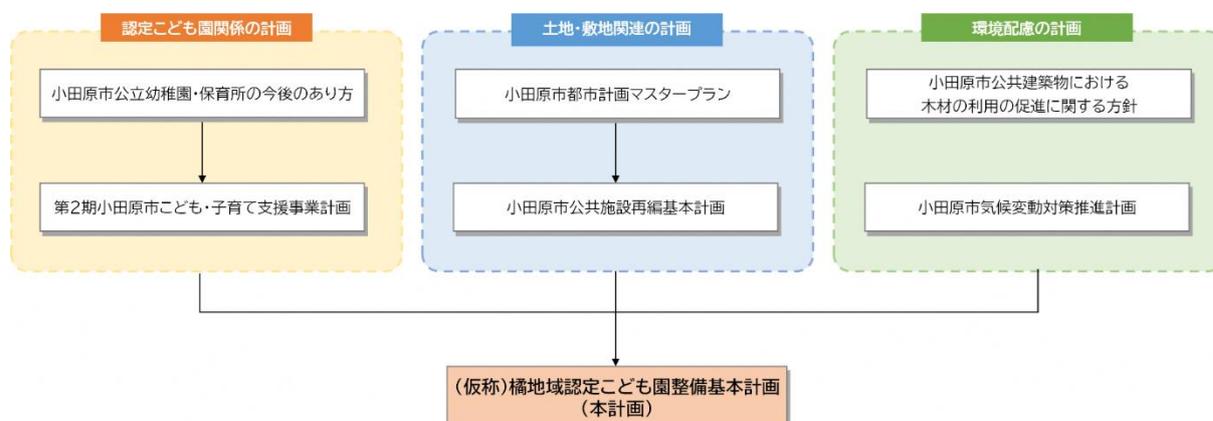
図：計画対象地（現下中幼稚園）

- 橘地域認定こども園に係る主な検討経過 -

平成 28 年 3 月	<p>「今後の公立幼稚園のあり方に関する基本方針」を取りまとめる。</p> <p>公立幼稚園で園児数の減少が続いている状況や施設の老朽化の懸念もあり、教育委員会では、公立幼稚園が果たすべき役割や、再編による適正配置、研究機能・保育機能の強化、特別支援教育の充実など、取組の方向性の整理を行った。</p>
平成 30 年 3 月	<p>「小田原市学校教育振興基本計画」を改定する。</p> <p>幼保一体化の観点から、教育委員会では、保育ニーズや地域バランス等を考慮しながら、認定こども園の早期設置を検討するとした。</p>
平成 31 年 3 月	<p>「小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方」を策定する。</p> <p>社会環境の変化や就学前教育・保育の重要性を考慮しつつ、これまで本市が実施してきた就学前教育・保育の取組や公立幼稚園・保育所の現状、今後の教育・保育ニーズ見込みなどを踏まえ、子ども青少年部保育課と教育委員会で、公立幼稚園・保育所の基本的な考え方や役割、就学前教育・保育の課題や質の向上に向けた取組の方向性などを取りまとめた。</p>
令和元年 11 月～ 令和 2 年 10 月	<p>地域説明及びヒアリングを実施する。</p> <p>前羽・下中幼稚園についての課題を踏まえ、認定こども園整備について地域への説明及びヒアリングを実施した。</p>
令和 3 年 3 月	<p>自治会関係者等説明会を開催する。</p> <p>子育て世帯を中心に認定こども園に期待する声が多く聞かれたことから、前羽・橘北両地区の自治会関係者等に対し、整備候補地を含む市方針案について説明会を開催した。</p>
令和 3 年 5 月～7 月	<p>子育て世帯への説明及びヒアリングを実施する。</p> <p>子育て支援団体のイベント参加者、公立幼稚園保護者、子育て支援センター利用者へ個別説明し、ヒアリングを実施した。</p>
令和 3 年 9 月～10 月	<p>子育て世帯へのアンケート調査を実施する。</p> <p>橘地域で就学前児童のいる 228 世帯にアンケートを郵送し、郵送又はインターネットによる回答を求めたところ、107 世帯から回答があり、これを取りまとめ課題として整理した。</p>
令和 4 年 1 月～2 月	<p>住民説明会を開催する。</p> <p>子育て世帯へのヒアリングやアンケート調査の結果を踏まえ、認定こども園整備について住民説明会（4 回）を開催した。</p>
令和 4 年 7 月～12 月	<p>（仮称）橘地域認定こども園整備基本計画を策定する。</p> <p>認定こども園の整備内容を定めた基本計画を策定した。また、検討に必要な敷地形状、面積を把握すべく整備計画地の敷地測量等を実施した。</p>

2 基本計画の位置づけ

本基本計画と上位関連計画等の関係を下図に整理します。これらの上位計画の方針等に従い、本基本計画を策定します。



図：本基本計画と上位関連計画の関係

認定こども園関係の計画

「小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方」では、将来の児童人口の減少を見据えた施設機能の見直し及び質の拡充に向けた対応を必要としています。

- ・「小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方」〈平成31年3月〉
- ・「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」〈令和2年3月〉

土地・敷地関係の計画

「小田原市公共施設再編基本計画」では、施設の統廃合や認定こども園の整備等について検討するとしています。前羽幼稚園及び下中幼稚園は築年数が40年以上であり、劣化も進行している（※FCI10%以上）ため、中長期的な観点からは施設の統廃合の検討対象施設となっています。

（※FCIとは建築物の物理的劣化状況を総合的、定量的に評価する指標。一般的に5%以下が良好とされている。）

- ・「小田原市都市計画マスタープラン」〈平成23年3月改定〉
- ・「小田原市公共施設再編基本計画」〈平成31年3月〉

環境配慮の計画

「小田原市気候変動対策推進計画」では、脱炭素化に向けた公共施設の環境配慮を推進していく考えがありますが、それは本市の公共建築物において木材の利用を可能な限り促進するとした方針にも合致しています。

- ・「小田原市公共建築物における木材の利用の促進に関する方針」〈平成24年2月〉
- ・「小田原市気候変動対策推進計画」〈令和4年10月〉

3 現状と課題の整理

3.1 橘地域の現状と課題

(1) 川東南部児童数の現状

川東南部は待機児童が多いことから、待機児童対策を重点的に進めてきた区域です。

現時点で、保育所が8施設（ほか分園が2施設）、幼稚園が5施設、認定こども園が1施設、小規模保育事業所が3施設に加えて企業主導型保育事業所が1施設ありますが、小田原市子ども・子育て支援事業計画において、令和2年度時点での推計児童数における保育ニーズの充足率を見ると、1～2歳児が93.4%、3～5歳児の保育利用が85.5%となっており、3～5歳児を中心に保育の受け皿不足が見込まれています。

表：年度別 教育・保育の量の見込み

（「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」令和2年3月策定より）

（単位：人）

	令和2年度				令和3年度				令和4年度				
	1号	2号	3号		1号	2号	3号		1号	2号	3号		
			0歳	1-2歳			0歳	1-2歳			0歳	1-2歳	
①量の見込み	499	567	58	302	476	554	56	318	464	558	53	324	
確保内容	教育・保育施設	893	484	65	238	893	493	57	246	893	493	57	246
	地域型保育事業	0	0	11	33	0	0	14	49	0	0	14	49
	その他施設※	0	1	2	11	0	65	2	29	0	65	2	29
	②確保内容合計	893	485	78	282	893	558	73	324	893	558	73	324
過不足(②-①)	394	▲82	20	▲20	417	4	17	6	429	0	20	0	
	令和5年度				令和6年度								
	1号	2号	3号		1号	2号	3号						
0歳			1-2歳	0歳			1-2歳						
①量の見込み	454	563	51	331	449	582	49	337					
確保内容	教育・保育施設	733	524	60	262	733	524	60	262				
	地域型保育事業	0	0	14	49	0	0	14	49				
	その他施設※	0	65	2	29	0	65	2	29				
	②確保内容合計	733	589	76	340	733	589	76	340				
過不足(②-①)	279	26	25	9	284	7	27	3					

※幼稚園＋預かり保育（2号）、企業主導型保育事業（地域枠）を含む

(2) 橘地域の現状と課題

橘地域には前羽地区と橘北地区がありますが、前羽地区には、前羽小学校と前羽幼稚園（休園中）、橘北地区には、下中小学校と下中幼稚園、ほぼ中間に橘中学校があります。

橘地域には保育所が設置されていないこともあり、橘地域に居住していて、市内の幼稚園・保育所を利用している割合は、令和2年の調査の段階で、幼稚園利用で約40%、保育利用（3・4・5歳）で約38.5%、保育利用（0・1・2歳）で24.1%と非常に少ない状況にあり、隣接する二宮町や中井町の施設を利用されている方が多い状況が伺えます。また、川東南部全域と比較すると、橘地域の幼稚園利用は4%多く、保育利用は10%少ない状況があり、隣接町の幼稚園に多くを依存している状況があります。こうした状況を踏まえると、教育・保育の受け皿確保が課題であり、幼児教育・保育の一体的提供が可能な認定こども園の整備を進めることにより、質の向上と保育の受け皿確保を図っていく必要があります。

(3) 現況の幼稚園（前羽・下中）の状況

現在、橘地区内の幼稚園は、公立の前羽幼稚園と下中幼稚園の2施設となります。

- ・ 前羽幼稚園に関しては、令和4年度より園児の受け入れを中止しています。
- ・ 近年、両園ともに園児数が減少しています。
- ・ 施設の耐震改修はしているものの、建築から45～50年経過しており老朽化が進んでいます。

表：幼稚園施設概要（令和4年8月時点）

施設名称	小田原市立前羽幼稚園	小田原市立下中幼稚園
外観写真		
所在地	小田原市前川 510	小田原市小船 174-1
建設年	昭和 47 年	昭和 53 年
構造	鉄骨造及び木造 地上 2 階建	鉄筋コンクリート造及び鉄骨造 地上 2 階建
敷地面積	936 m ²	2,148 m ²
延床面積	523 m ²	1,005 m ²
区域	市街化区域	市街化区域
用途	第一種住居地域	第一種住居地域
園児数	定員 70 名 平成 30 年 : 20 名 令和元年 : 16 名 令和 2 年 : 15 名 令和 3 年 : 10 名 令和 4 年 : 0 名 (休止)	定員 : 140 名 平成 30 年 : 27 名 令和元年 : 23 名 令和 2 年 : 16 名 令和 3 年 : 19 名 令和 4 年 : 18 名
職員数	合計 5 名 (園長 1 名、担任 2 名、臨時教諭 1 名、 用務員 1 名) ※令和 3 年 4 月 7 日時点	合計 11 名 (園長 1 名、副園長 1 名、担任 1 名、介 助教諭 4 名、延長保育教諭 2 名、用務員 2 名) ※令和 4 年 8 月 1 日時点
耐震診断	平成元年 7 月～9 月	平成元年 7 月～9 月
耐震改修	平成 21 年 9 月～12 月	診断の結果、改修の必要なし

(4) 周辺の子育て支援施設の状況

橘地域の子育て支援施設としては、橘タウンセンター内に「こゆるぎ子育て支援センター」が設置されており、認定こども園と連携した子育て世帯への支援が求められます。



図：下中幼稚園周辺の施設配置

(5) アンケート実施結果まとめ

令和3年9月30日から10月15日までの期間で実施したアンケート結果から、こども園整備に関連する意見をまとめました。

1) アンケートの概要

- ・実施日時：令和3年9月30日から10月15日まで
- ・実施目的：
認定こども園の将来のユーザーとなる世代の意見を聴取するためアンケートを実施。
- ・回答率：
橘地域在住の就学前児童がいる228世帯にアンケートを郵送し、107世帯から回答を得た。
(回答率46.93%)。

2) 意見まとめ

子育て世帯の主なご意見	
施設等に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の車があふれることなく停められる駐車場を必ず作って欲しい。 ・幼稚部の車の送迎を可能にしてもらいたい。 ・小学校に隣接しており、道が狭いうえ、幼稚園の駐車場が狭いので、人数が増えると周辺が混乱しそうに思う。 ・幼稚部のバス通園に対応して欲しい。 ・公立だが園バスがあると利用者は増えるのでは。 ・この地域にこども園を整備するのは、ニーズに合っていると思う。 ・保育機能を持った施設が現在無いので、設置していただけるのは有難い。 ・子どもにとっても、沢山のお友達と成長することが大事だと思うので、幼稚園を統合し認定こども園になるのは、とてもいい事だと思う。 ・保育園が橘地域にないので、ほとんどの方が市外にお子さんを預けているようなので、早くこの地域に保育施設ができることを切に願う。
運営に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の都合や勤務地への通勤時間の兼ね合いで、7時から預けられると良い。 ・外遊びをたくさんさせたい。自然を生かした教育を行って欲しい。 ・自然と触れ合う体験や種から育てた作物を収穫して味わう体験などの活動をしていただけると良い。 ・下中幼稚園は小学校が隣なので、小学校との交流があることは、とても良いと思う。

3.2 敷地状況・関係法令の整理

(1) 計画地の概要

本認定こども園は、整備計画地として現下中幼稚園の敷地を予定しています。計画地の概要は下表の通りです。

表：計画地の概要

建物用途	認定こども園（幼保連携型）
工事場所	神奈川県小田原市小船 174-1
工事種別	新築
用途地域	第1種住居地域
建ぺい率/容積率	60 / 200 %
防火地域	準防火地域
その他の地区・地域	第2種高度地区 景観計画区域 居住誘導区域
関連法規	消防法 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法） バリアフリー法 神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例 神奈川県屋外広告条例
道路幅員	北側道路：9.9m（法第42条1項1号） 西側道路：4.71～6.25m（法第42条1項1号） 東側道路：4.85m（法第42条1項1号）
敷地内インフラ	<input checked="" type="checkbox"/> 給水 <input checked="" type="checkbox"/> 污水管（下水道処理区域内） <input checked="" type="checkbox"/> 雨水管 <input checked="" type="checkbox"/> ガス（LPG） <input checked="" type="checkbox"/> 電気

(2) 敷地面積の整理

本敷地は都市計画道路小田原中井線の II 期区間の計画線が、下中幼稚園と下中小学校の間に計画されており、将来の道路計画に支障のないよう、認定こども園の施設配置等を計画する必要があります。

今年度を実施した測量調査結果より、現下中幼稚園の敷地「2148.85 m²」のうち、都市計画道路と重なる範囲は「732.02 m²」です。また、都市計画道路を挟んで西側に残地として「93.62 m²」が残されることとなります。

そのため、施設を計画するにあたり、将来的な都市計画道路整備による敷地面積減に伴い、建蔽率超過（既存不適格）が生じないように、施設計画は隣接地を含む「1692.85 m²」の中で行うこととします。なお、都市計画道路と重なる範囲に関しては、恒久的な利用とならないことを前提に園庭等の利用とします。



図：敷地面積

(3) 認定こども園に係る法令

本認定こども園は、以下の法令に基づき整備を進めていきます。

表：認定こども園に係る法令

表記名	法令名	
認定こども園法	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	平成 18 年法律 第 77 号
認定こども園法施行令	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行令	平成 26 年政令第 203 号
認定こども園法施行規則	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行規則	平成 26 年内閣府・文部科学省・厚生労働省令第 2 号
認定こども園法施行細則	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行細則	平成 27 年県規則第 4 号
幼保連携型認定こども園設備運営基準	幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準	平成 26 年内閣府・文部科学省・厚生労働省令第 1 号
幼保連携型認定こども園基準条例	幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例	平成 26 年県条例第 52 号
幼保連携型認定こども園基準条例施行規則	幼保連携型認定こども園の学級の編成、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例施行規則	平成 26 年県規則第 100 号
幼保連携型認定こども園取扱基準	幼保連携型認定こども園の設置認可に係る取扱基準	
幼保連携型認定こども園事務取扱要綱	幼保連携型認定こども園設置認可等の事務取扱要綱	

3.3 検討のポイント

基礎情報を踏まえ、6つの検討のポイントを設定しました。

6つの検討のポイント
検討のポイント1：ニーズの変化と施設の質的向上の必要性
検討のポイント2：橘地域の人口と児童数の推移によるニーズの見通し
検討のポイント3：幼稚園の統廃合による地域との繋がり希薄化
検討のポイント4：公立施設としてのあり方
検討のポイント5：都市計画道路の配置
検討のポイント6：環境に配慮した施設計画

検討のポイント1：ニーズの変化と施設の質的向上の必要性

昨今の少子化や核家族化、女性の就業率上昇に伴い、保育所ニーズは増加した後に横ばいで推移すると予想される一方で、幼稚園ニーズは大きく減少するとの見通しが示されています。さらには、今後の量的ニーズの減少を教育・保育の質的向上の契機と捉え、多様化するニーズに迅速かつ柔軟に対応できる良質な施設の整備が必要とされています。

検討のポイント2：橘地域の人口と児童数の推移によるニーズの見通し

小田原市の推計児童人口・女性就業予測に基づき、保育ニーズについては今後大幅なニーズの増加はないことが見込まれていますが、幼稚園ニーズについては約20年後には現在の6割強まで減少することが見込まれています。

本計画地である橘地域も同様の状況が想定されることや、現在、保育所が設置されておらず、今後も民間保育所の設置が見込まれない状況であることを踏まえ、認定こども園整備においては今後の幼稚園・保育ニーズを踏まえた適正規模の施設計画が求められます。

検討のポイント3：幼稚園の統廃合による地域との繋がり希薄化

本計画において統合を予定している下中幼稚園と前羽幼稚園は直線距離で約2km、自動車でも10分の距離にあります。小学校区はそれぞれ下中校区、前羽校区と分かれていることから、徒歩の生活圏を超えた統廃合となるため、地域・地区との連携がやや希薄となることが懸念されます。

市が実施したアンケート（「橘地域に整備を予定している公立認定こども園についてのアンケート」）からも、通園区域の拡大について懸念する意見や送迎時間の増加等、保護者の負担増加といった意見も出ています。

開設後の園運営においては、前羽・下中幼稚園で行われてきた地域と連携した事業を引き継ぎ、地域に根差した教育・保育の実施が期待されます。

検討のポイント4：公立施設としてのあり方

「小田原市公立幼稚園・保育所の今後のあり方」においては、公立施設が果たす役割として、①就学前教育・保育の一体的な実践に基づく研究機能としての役割、②インクルーシブな環境づくりに対する役割、③幼保小の連携、地域との連携促進におけるハブ的な役割、④地域の子育て支援の拠点としての役割、⑤教育・保育ニーズを量的・地域的に補完する役割の5つを掲げており、本市が新たに整備する施設としては、モデル園となるものであることから、施設整備及び運営の両面において、この役割を果たしていくことが求められます。

検討のポイント5：都市計画道路の配置

下中幼稚園と下中小学校の間には計画されている都市計画道路小田原中井線のII期区間は、計画線が幼稚園の敷地を大きく縦断しており、現況の敷地面積が大幅に減少します。また、都市計画道路が整備された際には、さらに通園圏が広がるため、自動車による送迎が増加することが想定されることや小学校が隣接していることから、通園児童の安全性や周辺交通への配慮が求められます。

検討のポイント6：環境に配慮した施設計画

検討に際しては、「小田原市気候変動対策推進計画」にて定められている環境配慮の目標達成に向け、太陽光発電等の再エネ設備を導入することでZEB Oriented化相当以上とすることを目指した検討を行うなど、省エネと創エネの両面から環境に配慮した計画が求められます。

また、小田原産木材を利用した木造化・木質化等により、子どもたちがやすらぎやぬくもりを感じられる健康的で快適な空間が提供できる施設整備とすることが求められます。

4 施設規模及び整備方針

4.1 施設整備のコンセプトと基本方針

前章までに整理した、当該地区の現況と検討のポイントを踏まえ、以下の通りコンセプトと基本方針を設定します。

コンセプト

子ども主体の教育・保育の実践を通じ、
主体性や創造性などを育む質の高い幼児教育・保育を提供する。
橘地域の恵まれた自然と触れ合い、木のぬくもりに包まれながら、
地域のひとたちや学校と連携し、地域に根差した活動を行う。

基本方針

子どもたちの主体性や創造性を伸ばし育むことができるとともに、使いやすく安心・安全な施設とすることを基本とし、今後、公共建築物として脱炭素化社会の実現に資することや子どもたちにとって温かみやぬくもりが感じられる施設整備を目指します。

(1) 安心・安全でぬくもりやゆとりが感じられる施設

- ・ 教育・保育に適したゆとりや安心・安全が確保できる施設
- ・ 地域産木材を利用し、木のぬくもりが感じられる施設
- ・ 職員同士の連携、協働が取りやすく働きやすい施設

(2) 教育・保育の質的向上が図れる施設

- ・ 支援の必要な子どもの保育がしやすい施設
- ・ 子どもが自ら主体的、継続的に遊びができる施設

(3) 保護者、地域、学校等との連携がしやすい施設

- ・ 子育て相談や支援機能を持ち、園務システムなど ICT 等の活用により、保護者や地域との情報共有や連携が図りやすい施設
- ・ 地域に溶け込んだ活動がしやすい施設

(4) 地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に寄与する施設

- ・ 省エネ・創エネ機能を積極的に取り入れた ZEB Oriented（正味エネルギー排出を 30～40%以上削減した建築物）化相当以上の施設

4.2 定員数の設定

(1) 適切な集団規模の検討

「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」（平成 24 年 3 月公益社団法人全国幼児教育研究協会）によると、一人ひとりの幼児への個別の対応が求められる「個に応じた援助」を行い、集団の形成過程を大切に、「協同性の育ち」を培うため、1 学級に、3 歳児は 20 人前後、4・5 歳児は 21 人以上 30 人程度の集団が望ましいと考えられています。また、同研究では、教員が望む 1 学級の幼児数については、発達の段階を考慮し、3 歳児は 20 人以下、4・5 歳児は 20 人以上、中でも 5 歳児は 25 人以上が望ましいとされています。

地域の子どもの人数も減少しており、小学校へ入学した時の 1 クラスの人数も 20～25 人になることから、同程度の規模で認定こども園での集団生活を送ることにより、小学校へのスムーズな接続ができると考えています。

また、近年、支援の必要な園児の占める割合が増えているという現状もあることから、個に応じた援助、協同性を育む援助、職員の環境等を考慮し、1 学級を 25 人以下に抑えた定員数とすることが必要であると考えています。

(2) 定員数の設定

橘地域における就学前児童の人口や市外の教育・保育施設への就園状況を踏まえるとともに、認定こども園として適切な集団規模を形成できる定員数として、以下の通りとします。

表：新認定こども園の定員数

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
保育部（保育認定）	5 人	10 人	10 人	12 人	13 人	13 人	63 人
幼稚部（教育認定）	—	—	—	9 人	10 人	10 人	29 人
合計	5 人	10 人	10 人	21 人	23 人	23 人	92 人

4.3 子育て支援機能の整備内容

認定こども園では、子育て支援事業を実施することが求められており、整備する施設には下記の機能を導入することを想定しています。

表：子育て支援機能の整備内容

導入機能	整備方針
預かり保育機能	<ul style="list-style-type: none"> 一時預かりのための諸室として整備し、プレ保育や地域交流等にも使用できるよう、フレキシブルな空間として整備します。
相談機能	<ul style="list-style-type: none"> 相談・面談室・子育て相談窓口として、プライバシーを確保し、保護者等が利用しやすい環境のある個室を整備します。 オンラインでの相談が可能な設えとします。

4.4 施設規模の算定

認定こども園の施設規模については、将来的に、都市計画道路小田原中井線 II 期区間の整備により敷地面積が減少した場合でも、整備計画敷地内に整備できることを基本としています。また、想定される定員数を基に、建築基準法等各種法令や幼保連携型認定こども園にかかる県条例等を踏まえ、基準面積を算定するとともに、保育現場において支援が必要な児童等が増えている状況や保育士等からの意見を踏まえ、近年に整備された保育施設等の整備事例を参考に諸室面積を算定し、今後の設計等の参考にするため目安の面積を表示しています。

(1) 必要規模及び必要諸室のまとめ

条例等で定められた園舎や園庭、保育室等の認可基準面積よりも広く面積を取るとともに、公立認定こども園として支援が必要な児童等に配慮するなど、余裕を持った計画として面積を算定しました。

(※面積については現段階における想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。)

1) 乳児室、ほふく室、保育室、遊戯室、園児用トイレ、クールダウン室

室名	定員	部屋数	面積	基準面積	備考
乳児室（0歳児）	5人	1	20 m ²	8.25 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・県の認可基準等よりも広く設定します。 ・支援が必要な児童等に配慮した広さとします。
ほふく室（1歳児）	10人	1	40 m ²	33.00 m ²	
保育室（2歳児）	10人	1	25 m ²	19.80 m ²	
保育室（3歳児）	21人	1	50 m ²	41.58 m ²	
保育室（4歳児）	23人	1	50 m ²	45.54 m ²	
保育室（5歳児）	23人	1	50 m ²	45.54 m ²	
遊戯室	—	1	175 m ²	90 m ² ※県設置認可に係る取扱基準より	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数に考慮した場合、153 m²以上が望ましいことから、より広く設定します。 ・舞台設置や収納に配慮した大きさとします。
園児用トイレ			30 m ²		
クールダウン室		1	30 m ²		
合計①	92人	6	470 m ²		

2) 園庭

施設名	面積	備考
園庭	450 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路が整備されるまでは、道路計画部分と一体的に使える園庭とします。 ・一部に畑等を設置します。 ・飲料水用設備、手洗用設備、水遊び場、園児清浄用設備を設置します。
合計②	450 m ²	

3) 必要諸室

室名	面積	備考
調理室	40 m ²	・調理、食育しやすい施設配置とします。 ・食品保管庫、食材搬入専用出入口を設置します。
保健室	10 m ²	・職員室に隣接し、ベビーベッド等を配置します。
職員室	55 m ²	・職員更衣室、トイレ、会議スペースを含みます。
合計③	105 m ²	

4) 付帯施設・共用部分

室名	面積	備考
図書コーナー	30 m ²	
休憩室	10 m ²	・職員の休憩用としてスペースを整備します。
玄関・廊下・ホール等	225 m ²	・園舎全体の3割程度とします。
倉庫・押し入れ・教材庫	70 m ²	・各諸室の1割程度とします。
合計④	335 m ²	

5) 子育て支援機能

室名	面積	備考
一時預かり保育機能 相談室	55 m ²	・職員と保護者が対面で会話できるスペースとします。 ※橘タウンセンターこゆるぎ内のこゆるぎ子育て支援センターと連携します。
合計⑤	55 m ²	

6) 屋外施設

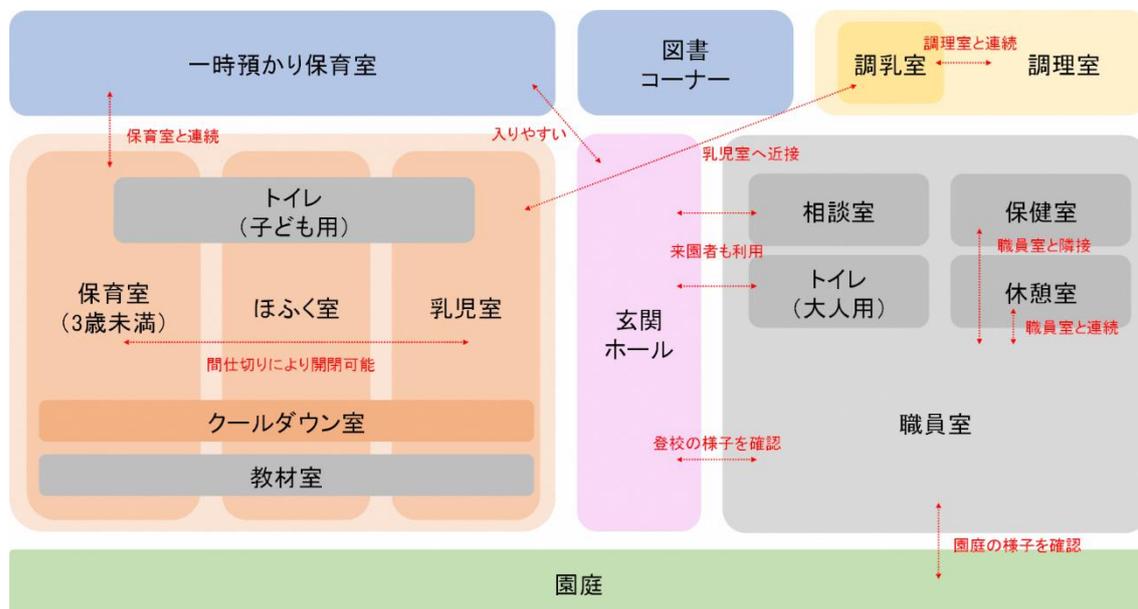
施設名	面積	備考
駐車場 駐輪場	—	・神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例より車いす使用者区画1台、搬入・緊急用2台とし、3台以上設けます。 ・保護者送迎用駐車場や職員駐車場は、小学校の通学路や車両の動線に配慮し、安全性を確保するため敷地外に設置します。

施設規模（合計①+③+④+⑤）＝965m²

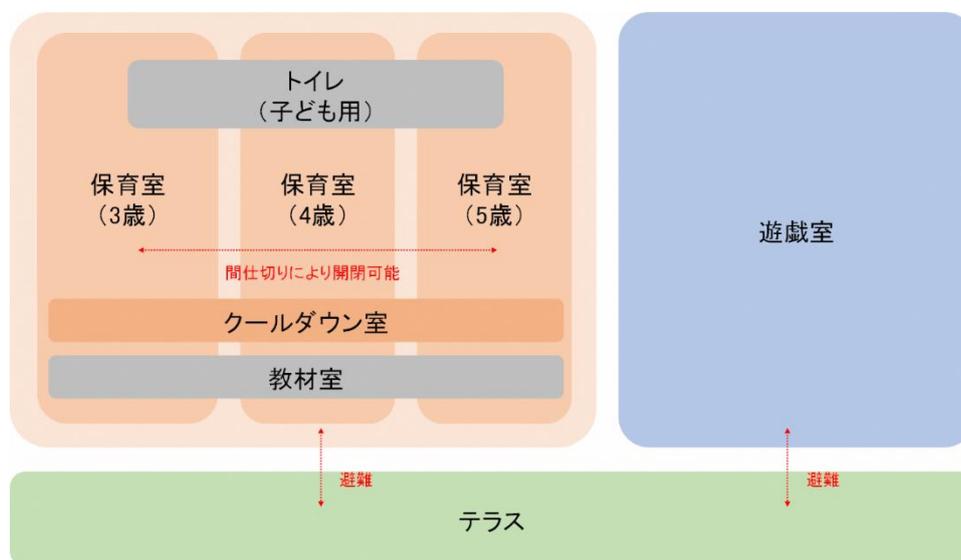
(2) 機能図

各諸室の機能や用途を考慮し、配置の関係性について機能図としてまとめました。今後の設計において、機能図を配慮した計画とし、設計を進めていきます。

※機能図については現段階における想定であり、今後の検討により変更となる可能性があります。



図：機能図（1階）



図：機能図（2階）

5 施設配置

5.1 整備方針

以下の視点で整備を進めます。

視点1：利用者の安全性と利便性を考慮した出入口・駐車場等の歩車分離の計画

- ・周辺道路の利用状況を想定し、隣接する下中小学校の通学路にも配慮しながら、アクセス性に配慮した駐車スペースの配置とします。
- ・認定こども園に整備する子育て支援機能の利用者や管理車両は移動距離が短い必要があることから敷地内に整備し、保護者の送迎用駐車場や職員駐車場は、周辺の交通動線や園との距離に配慮しつつ敷地外に整備します。

視点2：利用者の安全性に配慮した建物配置の検討

- ・認定こども園の利用者と子育て支援施設利用者の動線が混在しないよう「セキュリティライン」を設定しつつ、相互の活動が見える空間整備を行います。
- ・将来的に都市計画道路が開通した際に交通量が多くなることから、道路側に寄せた建物配置とする等、安全な配置計画とします。

視点3：周辺地域への良好な環境の提供

- ・日中は子どもの声が響くことから、周辺地域への音の伝達に配慮した施設配置計画とします。
- ・敷地外周部には緑の多い遊歩道等の配置や都市計画道路予定地の利活用等、地域住民が気軽に利用できる環境づくりを目指します。

5.2 配置計画

以下の配置計画に基づいた施設配置とします。配置イメージについては、次頁で示します。

全体配置	敷地北側に園舎、南側及び将来の都市計画道路部分に園庭、東側に駐車場を配置します。
車両動線	敷地東側に、車椅子対応用等の駐車場を配置し、西側道路及び北側道路と車両動線を分離し、通学路との交錯を最小限とします。
自転車動線	歩行者動線と錯綜しないよう、ピーク時の混雑を考慮した配置とします。
歩行者動線	西側道路（将来の都市計画道路）から入ることができ、また駐車場からも離すことで、安全性の高い計画とします。
建物の向き	南側・北側に窓を配置し日照を確保することで、明るい教室となるような配置とします。
エントランスの配置	主要動線となる西側道路に配置し、駐車場・駐輪場からのアクセスが良い計画とします。
周辺との関係性	隣家から園舎をできるだけ距離を置くことで、騒音を軽減する計画とします。小学校側に向けた配置とすることで、小学校との連携を意識した計画とします。

5.3 配置イメージ

認定こども園として採光や園庭との繋がりに配慮するとともに、駐車場や駐輪場からエントランス部へのアクセス性を考慮し、北側に施設を配置することとします。

園舎は平屋建てが理想ですが、将来的な都市計画道路整備による敷地面積が小さくなることを考慮すると、想定施設規模から一部2階建て、又は総2階建てが想定されます。

なお、園舎の構造については、2階建ての場合に諸室の配置により耐火建築物とする必要があるため、十分に配慮し設計を進める必要があります。



図：配置イメージ

6 建物の構造と整備手法の選定

本施設は、児童の利用にあたって、木のぬくもりが感じられるなど、環境に配慮した施設計画が求められています。木材の持つ断熱性や調湿効果、情緒安定効果に加えて、環境負荷の低減や事業費の縮減にも繋がる木造での園舎整備を目指します。

また、公共施設の整備手法については、一般に「設計・施工分離発注方式」や「設計・施工一括発注方式（デザイン・ビルド方式）」等が採用されていますが、本件においては、橘地域の公立幼稚園の園児数減少の状況や橘地域の子育て環境の向上への地域の期待等を踏まえ、可能な限り早期の施設整備が求められます。併せて、地域産木材の確保や脱炭素化等への配慮した施設とする点を考慮すると、施工者が持つ技術力やノウハウ等を設計段階に活用することも求められます。

こうした要求を踏まえるとともに、木造・ZEB・耐火対応など施工者の技術力・ノウハウ等を設計段階で活用できること、事業者提案によるコスト削減が期待できること、工期短縮が見込めること、導入機器等を踏まえた設計や納期を見込んだ発注ができるなどメリットが多い「設計施工一括発注方式（デザイン・ビルド方式）」を採用することとします。

7 概算事業費

実際の建設事業費は基本・実施設計の段階で算出しますが、参考見積りや類似事例、官庁施設の設計業務等積算基準などを参考として試算を行い、木造による概算事業費を算出しました。

また、近年、建築物価が高騰している状況があるとともに、今後も上昇することが見込まれることから、建築時の建築物価上昇を見込んだ概算事業費を算出しています。

概算事業費 949,320,000 円

8 事業スケジュール

本基本計画を基に、令和5年度には事業者選定を行い、設計作業に着手します。

既存施設の解体は下中幼稚園の一時移転後に実施し、解体後に建設工事に着手、令和8年4月の開園を目指します。

表：事業スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本計画					
設計					
建築工事					 開園
解体工事					

(仮称) 橘地域認定こども園整備基本計画
令和4年12月策定
小田原市子ども青少年部保育課
〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 番地
TEL0465-33-1642

(仮称) 橘地域認定こども園整備基本計画